

高田保馬著作目録

松田義男 編

2019年 7月23日

2009年 11月30日

目次

1. 著書(編著・共著・訳書・冊子等を含む)
2. 論文等(新聞・雑誌掲載)

凡例

- *「1. 著書(編著・共著・訳書含む)」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をくゝに示した。
- *単著については、目次構成を【 】に示した。階層構造はI、II…、1、2…、①、②…で表記した。
- *新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- *収録書については初出の注記として[]に記した。
- *ペンネーム「天山」の使用は≪ ≫に明記した。
- *編者未確認の著作については*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成にあたっては、「著書論文目録」(『経済学論叢』58-1・2、1944年2月)、「高田博士著者論文目録」(『社会学の諸問題 高田先生古稀祝賀論文集』有斐閣、1954年)、「高田博士著書及び学術論文目録」(『大阪大学経済学』5-3・4、1956年3月)、「著作目録」(『大阪府立大学経済研究』17、1960年12月)、「主要著作目録」(『分配理論の研究 高田保馬先生喜寿祝賀記念』有斐閣、1964年)、「著作目録」(『高田保馬博士の生涯と学説』創文社、1981年)を参照したほか、NHK放送博物館、大阪市立大学学術情報センター・恒藤記念室、大阪府立中央図書館・同中之島図書館、岡山大学付属図書館、岡山商科大学付属図書館、神奈川近代文学館、関西学院大学産業研究所、北九州市立中央図書館、九州大学付属図書館、京都大学附属総合図書館、京都産業大学図書館、熊本大学付属図書館、神戸学院大学有瀬図書館、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館・同経営経済研究所、国立教育政策研究所教育図書館、国立国会図書館、金光図書館、佐賀県立図書館、東京大学総合図書館・同経済学部図書室、同志社大学図書館・同経済学部研究室・同人文科学研究所、奈良女子大学付属図書館、日本近代文学館、広島県立図書館、法政大学大原社会問題研究所、北海道立図書館、早稲田大学付属図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

付記

本著作目録では、従来の著作目録に採録されている①「勢力抽象の経済理論」(『経済論叢』50-6、1940年)[『勢力説論集』収録]、②「階級財について」(『経済論叢』76-3、1956年)を削除した。『勢力説論集』に「勢力抽象の経済理論」と改題・収録された論文は、「勢力抽象の労銀論」(『経済論叢』49-5、1939年11月1日)である。②の『経済論叢』76-3は1955年9月刊であり年次にも混乱があるが、これは「階級財」について論じている「消費函数をめぐる省察」(『経済論叢』77-3、1956年3月1日)の誤記と判断した。また、1912年刊とされる Conscription System in Japan は1921年刊と訂正した。同書には1913年の統計データも使用されているし、British Library や Library of Congress でも1921年刊しか確認できない。従来の高田保馬年譜でも1912年から日本徴兵制度の経済的影響の研究に着手し、1913年7月に師団所在都市の調査のために九州、四国、北海道に旅行したと記しているし、高田保馬「学問の旅―一学問の自叙伝-3」(『経済』3-3、1949年3月1日)26ページでも、1914年頃まで研究を続けていたという。

1. 著書(編著・共著・訳書・冊子等を含む)

グロッパリ著『社会学綱要』<経済学資料 3>有斐閣書房、1913年12月15日[Alessandro Groppali, *Elementi di sociologia* の翻訳]【1社会学、2社会と家族との起源、3社会現象の因果及び系列の問題、4経済現象の起源及び其の社会的進化、5法律現象の起源及び其の社会的進化、6政治現象の起源及び其の社会的進化、7道德現象宗教現象の生成及び其の社会的進化、8芸術現象科学現象の起源及び其の社会的進化、9社会現象の法則及び其の被予見性、付録 新史観二論(1唯物史観、2マルクス及びロシアの史観)】

『分業論』<法律学経済学研究叢書 13>京都法学会、1913年12月18日【緒言、1分業ノ意義、2分業ノ統合、3分業成立ノ過程、4分業ノ原因、5分業ノ結果】[改版：刀江書院、1927年10月5日]

『大数法論』<法律学経済学研究叢書 16>京都法学会、1915年7月5日【1大数法ノ概念、2大数法ノ論証、3大数法ノ適用範囲】

文明か幸福か『社会政策より見たる税制問題』<社会政策学会論叢 第9冊>同文館、1916年4月8日

『社会学的研究』東京宝文館、1918年12月5日[増訂版：1923年3月5日]【I社会学方法論の問題(1社会進化論の性質、2社会法則の性質、3統計的方法と帰納法)、II社会人口及び社会心意の問題(4生死減少逆行の法則、5貧富と出生率、6分離論、7社会的定量的法則)、III社会組織及び社会幸福の問題(8分業に就いて、9家族の将来と社会の団結、10資本家的集積説の研究、11優生学是非、12現代文明の迷妄—生産政策の否定)】

『社会学原理』岩波書店、1919年2月5日【I社会学(1社会学の概念、2社会学の問題、3社会本質論、4社会の構成原理)、II社会成立論(1総論、2同質結合論、3異質結合論、4社会意識論)、III社会形態論(1総論、2抽象的形態、3具体的形態、4直接社会、5直接間接社会、6間接直接社会、7間接社会、8社会圈及び社会関係、9社会形態の静的相互関係、10社会形態間の動的相互関係—変動の傾向、11動的相互関係の説明)、IV社会結果論(1総論、2文化の発達、3自由の発達、4個性の発達、5結論)】

『現代社会の諸研究』岩波書店、1920年2月10日【I将来社会観の種々(1ジメルとスペンサーとの将来社会観、2集産主義の社会学的考察、3ギルドソシアリズムの社会学的考察、4遊戯としての社会生活)、II富及び企業の集中(5所得のパレート線に就いて、6収益の丘を論ず)、III戦争及び人種問題(7戦争と文化、8人種問題私見、IV日本の人口問題(9日本に於ける出生率増加の原因、10最近の出生率減少に就いて)】

Conscription System in Japan, Oxford University Press, 1921

『社会と国家』岩波書店、1922年5月25日【1総説、2社会及び全体社会、3共同社会に関する思想の変遷、4全体社会と国家との同視、5社会の発達の問題に就いて、6部分社会の分化、7社会の団結の減衰、8社会の地域的解放】

『社会学概論』岩波書店、1922年12月15日【I社会学(1社会学、2普遍化的文化科学としての社会学、3社会法則、4社会の本質、5社会学の問題)、II社会の形成(1社会の成立、2社会の単純分化、3社会の複合分化、4社会の分散、5社会意識、6社会組織、7社会の存続)、III社会の相互関係(1結合に関する一般的法則、2分離の一般性質、3諸社会の静的関係、4基礎社会の発達方向、5派生社会の発達方向)、IV社会の結果(1文化の発達、2文化の発達過程、3自由の増進、4個性の形成)】

『社会学的研究(増訂版)』東京宝文館、1923年3月5日【I社会学方法論の問題(1社会進化論の性質、2社会法則の性質、3統計的方法と帰納法)、II社会人口及び社会心意の問題(4生死減少逆行の法則、5貧富と出生率、6分離論、7社会的定量的法則)、III社会組織及び社会幸福の問題(8分業に就いて、9家族の将来と社会の団結、10資本家的集積説の研究、11優生学是非、12現代文明の迷妄—生産政策の否定)、IV補遺(13心的相互作用に就いて、14社会分化に於ける力の欲望、15社会結合の研究について、16社

会結合の根本過程、17 社会法則に就いて】

『階級考』聚英閣、1923年5月8日【I 現代の階級(1 国内の階級と国際の階級、2 社会問題の中核、3 社会連帯について)、II 階級の考察(4 職業の尊卑を論ず、5 階級の本質、6 階級の客観的基礎、7 階級の周流、8 階級基礎の変更、9 社会的水準化の傾向、10 階級の固定を論ず)】

住居費の一研究『復興叢書 第一輯』東京商科大学一橋会編、岩波書店、1923年12月20日

『経済学研究』岩波書店、1924年9月15日【I クラック研究(1 経済静学と社会静学—クラックを中心として観たる、2 シュムペッタアの経済静学、3 クラックの資本観、4 報酬遞減の法則に就いて、5 クラックの限界生産力説)、II 資本利子の考察(6 利子の厳密動学説、7 利子の構成、8 河上博士の剰余価値論、9 剰余価格再論(河上博士の剰余価格論に関して—)、III 価格諸考(10 フィッシア氏物価騰貴論の方法を難ず、11 米価とキングの法則、12 課税と独占価格、13 紙幣の減価に就いて、14 為替価値に関するカッセル説に就いて)、IV 統計雑録(15 住居費の一研究、16 雑考(①所得分配の考察に就いて、②乳児死亡率と出生率との関係、③物価と割引歩合との平行、④フォルヘルの統計学本質論)】

経済史観より第三史観まで『現代思潮大観』同文館編輯部編、同文館、1924年12月25日[『階級及第三史観』収録]

本書の後に『軍隊社会の研究』廣江源三郎著、聚英閣、1925年1月23日

『階級及第三史観』改造社、1925年6月15日[改訂版:<社会学叢書 第2冊>関書院、1948年10月1日。
復刊:『階級及第三史観』<高田保馬・社会学セレクション 2>(ミネルヴァ書房、2003年)【階級篇(1 階級の本質、2 マルクスの階級概念、3 社会的勢力の性質—階級構造の分析)、第三史観篇(4 経済史観より第三史観まで、5 第三史観、6 階級の動学的考察)】

『改版 階級考』聚英閣、1925年10月20日【I 階級の考察(1 階級の本質、2 階級の主観的基礎、3 階級の客観的基礎、4 職業の尊卑を論ず、5 階級の固定を論ず、6 階級の周流、7 階級基礎の変更、8 社会的水準化の傾向)、II 現代の階級(9 国内の階級と国際の階級、10 社会問題の中核、11 社会連帯について)】

社会学大意『社会政策大系第1巻』大東出版社、1926年8月5日[復刻『社会政策大系 第1巻』(日本図書センター、2002年)]

『社会関係の研究』岩波書店、1926年11月5日【前篇 社会の概念(1 社会の本質について、2 社会の本質に関して、3 社会学の性質)、後篇 社会関係の研究(4 結合の上位、5 定型としての共同社会、6 社会関係の研究、7 階級の自壊作用、8 結合と分離との関係)】

日本の社会科学『社会経済体系』第3巻、日本評論社、1927年1月25日

経済学『社会経済体系』第12~14巻、日本評論社、1927年10月30日、11月30日、1928年1月15日

『人口と貧乏』日本評論社、1927年11月15日【I 貧乏についての私見(はしがき、1 除貧の二途、2 生計費に就いて、3 浄財とは何ぞや、4 賭博についての断章(①賭博としての社会生活、②生活と賭博との界、③再び賭博について))、II 人口についての私見(はしがき、産めよ殖えよ、5 人口問題私見、6 人口はどうなるか、7 人口問題の反批判)】

資本主義の社会学的考察『社会経済体系』第18巻、日本評論社、1928年5月31日[『国家と階級』収録]

『経済学』<社会科学叢書 第8編>日本評論社、1928年9月20日【I 経済学(1 根本概念)、II 組織の理論(2 貨幣、3 企業)、III 分析的考察(4 価格の理論、5 分配の理論)】

『景気変動論』<現代経済学全集 第13巻>日本評論社、1928年11月15日【I 序論 静態と動態(1 経済動態理論、2 経済静態、3 前進的変動)、II 本論 景気変動の理論(4 景気変動の概観、5 財の側に於ける変動、6 信用の側に於ける変動、7 景気変動と生産方法の変化、8 景気原因の理論、9 景気変動に関する諸学説、10 景気と恐慌)】

序文『本朝商業広告史』水田健之輔著、広告文化社研究所、1928年11月25日[増補版：1940年7月10日]

社会学に於ける平等思想『岩波講座 世界思潮 第6輯』岩波書店、1929年2月8日[「社会水準化の法則」と改題『国家と階級』収録]

『価格と独占』<経済学研究 第2巻>千倉書房、1929年3月25日【1 独占の本質—土方教授の独占説について、2 剰余価格と資本の蓄積—河上博士の再論について、3 経済静態について、4 経済とは何ぞや、5 帰属学説について、6 生産係数について、7 私の人口理論—那須博士の批評に答へて、8 資本蓄積に関する第二論—生産手段と消費資料との関係につき河上博士に答ふ】

『融和問題の一考察』<融和事業叢書 第2輯>岡山県協和会、1929年6月20日[1929年2月16日社会問題講演会(於岡山市公会堂)]

感想『百子居叢書 第二編』西川百子編、更生閣、1929年9月15日

『社会雑記』日本評論社、1929年10月25日【前篇 生活と政治 1 醒め得ざる日本、2 政治のすがた、3 農村のために、4 農村の疲弊について、5 農村雑記(①都会討伐、②農村の教育、③地下室、④畑の仕事、⑤小浜雑記)、後篇 二の問題 6 社会問題としての融和問題、7 家族の展望、8 家族を中心としての感想(①村人放言、②家族の遠孫)】

『総説・生産の理論』<経済学新講 第1巻>岩波書店、1929年11月10日【I 総説(1 経済学、2 経済学の根本概念、3 理論経済学の問題)、II 生産の理論(1 生産の概念、2 労働、3 生産手段、4 企業、5 生産費)】

* 『さえ子の思ひ出』高田保馬、1929年<福岡市総合図書館所蔵>

『価格の理論』<経済学新講 第2巻>岩波書店、1930年6月25日【III 交換の理論 1 価格の理論(1 総説、2 市場と価格、3 価格の決定、4 生産財の価格、5 一般均衡、6 価格の勢力による説明、7 国際価格の理論)、付録(1 一般的均衡の説明に関する補遺、2 価格の勢力説)】

『失業問題を中心として』[講演]佐賀県社会事業協会、1930年8月18日<国立国会図書館憲政資料室所蔵「大野緑一郎関係文書」453>

オフェリミテ『経済学辞典 第一巻』岩波書店、1930年11月15日

『労働価値説の吟味』<理論経済学叢書 第1編>日本評論社、1931年2月1日【緒言、1 労働の異質性、2 労働価値説は支持し得らるるや、3 マルクス価値論の価値論、4 資本蓄積理論の蓄積】

企業者所得、企業利潤、供給曲線、経済的均衡、経済的数量、経済動態、限界原理、限界生産力説、鉱山地代、公正地代『経済学辞典 第二巻』岩波書店、1931年2月15日

マルクス経済学批判『マルクス主義批判』思想問題研究会編、社会教育会 1931年2月28日【1 労働価値説の世界経済学界に於ける地位、2 労働価値説に対する批評の方法、3 労働価値説の論証、4 労働価値説の批評、5 マルクス人口理論及びその批評と現今の失業、6 資本蓄積の理論、7 マルクス以後に於ける蓄積理論及びその批評】

『マルクス経済学新批判』思想問題研究会編、社会教育会、1931年3月7日【1 序論、2 マルクス経済学の概要、3 超越的批判、4 内在的批判】

資本所得、収益財、準独占、生産者余剰『経済学辞典 第三巻』岩波書店、1931年4月15日

社会学的史観について『哲学論文集 朝永博士還暦記念』天野貞祐編、岩波書店、1931年4月30日[『国家と階級』収録]

『ふるさと』<歌集>日本評論社、1931年5月5日[改訂版：有恒社、1946年11月1日]

経済問題と青年の覚悟『思想問題と教育』思想問題研究会編、社会教育会、1931年6月10日

『貨幣の理論』＜経済学新講 第3巻＞岩波書店、1931年6月15日【III 交換の理論 2 貨幣の理論(1 総説、2 貨幣の本質、3 貨幣の形態、4 信用と貨幣、5 本位制度、6 貨幣の価値、7 貨幣数量説、8 購買力平價説、9 貨幣の価値の安定)】

『分配の理論』＜経済学新講 第4巻＞岩波書店、1931年6月15日【IV 分配の理論 (1 総説、2 労銀の理論、3 地代の理論、4 利子の理論、5 企業利潤の理論、6 派生的所得、7 所得の分布)】

『中等新公民教科書 上・下』高田保馬・森口繁治共著、三省堂、1931年10月6日[修正再版『改訂 中等新公民教科書 上・下』1932年2月25日。修正4版：1934年11月20日]

地代学説『経済学辞典 第四巻』岩波書店、1931年10月15日

社会問題『最新公民科資料精説 昭和六年八月公民教育講習会講演集』文部省普通実業学務局編、帝国公民教育協会、1931年12月1日【1 社会問題の意義、2 階級の意義、3 社会問題の変遷、4 社会運動と社会思想、5 社会政策、6 理想的及科学的社会主義、7 マルクスの国家観、8 共産主義】

経済学方法論『経済学の基礎理論』＜経済学全集第5巻＞改造社、1932年3月22日

『中等新公民教科書教授資料 上・下』＜森口繁治との共著＞三省堂、1932年4月5日[上巻「社会教育学」を「社会教育」と題して『社会教育基本文献資料集成 第19巻 公民教育論 2』(大空社、1992年)抄録]

『経済学の近状と世界経済の動き』青年教育普及会、1932年4月18日

『マルキシズムの経済学的批判』青年教育普及会、1932年4月20日【1 緒言、2 マルクス経済学の概要、3 マルクス経済学の批判、4 唯物史観の批判、5 結語】

物価及び不景気の問題『第六回従業員学術講演集』製鉄所従業員会館編・刊、1932年5月10日

『変動の理論』＜経済学新講 第5巻＞岩波書店、1932年6月10日【V 変動の理論(1 変動の理論の性質、2 静態の理論、3 前進変動の理論、4 景気変動の概観、5 景気徴候論、6 景気変動の原因、7 景気変動と前進変動)】

社会と国家『岩波講座哲学』第9巻、岩波書店、1932年8月20日[『国家と階級』収録]

* 『女子教育新公民教科書 上・下』＜森口繁治との共著＞三省堂、1932年11月[修正再版、1932年11月15日文部省検定済]＜奈良女子大学図書館所蔵＞

我が国の人口問題『公民教育大系 昭和七年度夏期講習会講演集』文部省普通学務局編、帝国公民教育協会、1932年12月10日[国会図書館所蔵版では1933年1月7日に訂正]

日本に於ける社会学の発達『岩波講座 教育科学 18』岩波書店、1933年3月16日

蓄積理論の書き改め『経済学研究 福田徳三博士追憶論文集』福田徳三博士追憶論文集刊行委員会編、森山書店、1933年4月20日[『マルクス経済学論評』収録]

序『冬青葉 歌集』下村湖人著、新政社、1933年4月20日

『経済原論』＜理論経済学叢書 第3編＞日本評論社、1933年4月25日【1 理論経済学、2 生産の理論、3 交換の理論、4 分配の理論、5 全体としての経済】

マルクス学説の批評『昭和七年十月 思想実務家会同に於ける講演集』＜思想研究資料 第38輯＞司法省刑事局、1933年12月

『マルクス経済学論評』改造社、1934年6月19日【1 総説(1 マルクス経済学理論の吟味、2 マルクス経済学批判の前提)、2 資本主義没落理論の批判(3 資本主義没落理論の批判、4 人口に関する小論)、3 地代論宋(5 労働価値説の擁護難、6 マルクスの地代論と価値論、7 マルクス地代論をめぐる、8 マルクスを破壊する者、9 マルクス地代論の解釈、10 地代論争の決算)、4 蓄積理論考察(11 蓄積理論の一考察、12 蓄積理論の書き改め、13 蓄積理論の修正—説いて久留間氏の批評に及ぶ—、14 蓄積過剰の必然性、

15 マルクスに於ける平均利潤率】

『貧者必勝』千倉書房、1934年8月13日【1 追憶を語る(千反畑の家、思想流転の記、武夫原の歌の作者、誠友団回顧、中林梧竹翁のこと、シュムペーター教授の印象、島原半島、京都より)、2 貧乏の話(国民皆貧論、道徳としての貧乏、貧者必勝の理)、3 農村と政治の話(農村亡びんとす、国民生活に於ける米の地位、思想と政治、日本の政治について、日本の歩み)、4 経済を語る(新秋雑記、増税と資本蓄積、民族と経済、国内独占か国際独占か、合理化は資本主義を危くするか)】

『国家と階級』岩波書店、1934年10月30日【前篇 社会学的史観(1 国家と社会、2 国家の永続性、3 社会水準化の法則、4 経済社会学の素描、5 資本主義の社会学的考察)、後篇 唯物史観批判(6 社会学的史観について、7 第三史観の立場から一福本氏への版批判一、8 権力と経済一河上氏の批評に答ふ、9 生産力の自己運動一唯物史観の一批評一、10 唯物史観の第三史観への接近、11 生産力の問題)】

* 『特別講義・日本の経済の現状に就いて』1934年<熊本県立図書館所蔵>

都市問題に関する社会学的一考察(要旨)『第四回全国都市問題会議総会 [昭和九年・東京] 7 議事要録』1935年4月13日

『資本主義経済と日本の経済』<思想叢書 第8篇>大阪府思想問題研究会、1935年5月30日

『利子論研究』岩波書店、1935年6月10日【I 利子の勢力説(1 利子に関する試論、2 経済に於ける勢力一中山教授の批評に答ふ一)、II 制欲説と貨幣の効用(3 制欲説の吟味一蓄積に関する新見解一、4 資本形成の自働性について一制欲説の側面一、5 利子の資本蓄積に及ぼす作用、6 貨幣の価値の受動性、付論 貨幣の価値について一柴田助教授に答ふ一、7 貨幣効用の測定について、8 労働の供給について)、III ベエム利子説研究(9 時差説覚書、10 利子歩合の理論一北欧学派の利子論の中核に関する覚書一、11 労銀と利子一ウィクセル、リンドベアクの所説を中心として一、12 自然利子の理論一ベエムとウィクセルの自然利子概念の分析一、13 ベエムの利子生産力説、14 新労銀基金説について)、IV ベエムの資本理論と景気学説(15 ハイエクの景気理論一新しき貨幣的景気理論を批評して自己の立場を明らかにす一、16 節約の矛盾について一ハイエクの節約賛美論に対する疑問一)】

『短歌 20首』『京大歌集 昭和十年版』京大短歌会、1935年7月6日

『米価の長期変動』<[日本学術振興会]学術部第六小委員会報告 第3冊>日本学術振興会、1935年7月25日[日本学術振興会前第六小委員会編『米穀経済の研究(2)』(有斐閣、1940年5月22日)収録]

同志社学派に寄す[「同志社に寄する」]『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』<同志社校友同窓会報 第百号特輯>同志社事業部、1935年10月27日

生活標準と人口問題『人口問題資料 第四輯』<人口問題講演集 第二輯>人口問題研究会、1935年11月10日

『我が国の農村問題』<思想新輯>思想問題研究会編、青年教育普及会、1935年11月15日【序言一経済的と政治的、1 マルクス資本主義論批判、2 我が国農村疲弊の諸因、3 我が国農村更生の諸方策】

『民族の問題』日本評論社、1935年12月28日【I 感想(1 世界主義と民族主義一ひとつの感想、2 三日月村より一平等への動き一、3 国民生活について、余論 低生活の問題)、II 時論(4 民族主義と独裁政治一世界は何処へ行く一、5 民族と経済的不況一危機とはこれのみ、6 世界国家への道一理性の一設計一、7 軍備と経済一不況による不況の克服一、8 民族主義の限界一エチオピア、イタリア一)、III 理論(9 民族と世界一民族の周流に関する法則一、10 民族の概念)】

新経済の組織者『土田杏村全集 全15巻[内容見本]』第一書房、1935年

北米学派の利子学説『関西大学創立五十年記念論文集』関西大学、1936年6月10日

『民族発展の法則』<興民叢書 第1輯>興民協会、1936年8月31日[5月27日講演記録(於協調会大阪支部主管興民学院春季講座)【抽象的観察と具体的観察、共同社会と利益社会、歴史の観方、文化の進

展と利益社会化の傾向、民族の興亡、人口と文化、戦争と政治と産業、むすび(日本の行く途)

青年と修養『来し方廿とせ』西直彦編、浜田印刷所、1936年10月25日[「修養のためにすゝめる」と改題
『回想記』収録]

『経済と勢力』<理論経済学叢書 第4編>日本評論社、1936年11月20日【前篇 経済学における勢力
概念(1 経済学の根本問題、2 経済理論に於ける勢力の地位、3 社会的勢力の分析、4 労働価値説の評価、
5 マルサスと近代的景気論)、後篇 特殊問題研究(6 貨幣の将来効用について、7 供給曲線の性質、8 不
完全競争について、9 純生産力について、10 利子歩合の決定)】

Eine dritte Geschichtsauffassung, Grundbegriffe der soziologischen Geschichtsauffassung, *Reine und
angewandte Soziologie : eine Festgabe für Ferdinand Tönnies zu seinem achtzigsten Geburtstage
am 26. Juli 1935*, 1936

『経済原論 講義説明』<謄写版>久松屋書店、1938年2月10日

『利子論』岩波書店、1937年11月10日【1 利子論序説、2 利子の社会的説明、3 消費利子の問題—時差
の意義、4 生産の構造、5 利子の限界生産力説、6 利子生産力説の吟味、7 限界生産力説の内容、8 純限
界生産力説、9 費用としての勢力、10 利子歩合の決定、11 生産期間論、12 固定資本論、13 現実利子論、
14 新しき資本概念とこれに伴ふ利子理論、15 結論】

『日本躍進の前提』<国民精神作興叢書 第7輯>文部省、1938年3月30日【1 問題の内容、2 文化の特
性と社会の特性、3 日本文化に於ける堆積、4 自己犠牲と簡素、5 躍進の過程】[「日本の民族と経済」と
改題『民族と経済 第二集』収録]

『日本の経済の展望』<産業講座資料 第7輯>神戸市産業課編、神戸市、1938年4月10日

『経済学概論』<理論経済学叢書 第8編>日本評論社、1938年4月20日【I 緒論(1 経済、2 資本主義経
済、3 経済学、4 経済理論の問題、5 若干の基本概念)、II 個別経済(1 二種の個別経済、2 家計、3 企業—
其の一、企業の本質、4 企業—其の二、企業の形態、5 企業—其の三、企業の結合、6 企業—其の四、
企業の統制、7 企業—其の五、企業の種類、8 市場、9 貨幣、10 貨幣制度)、III 生産の理論(1 生産の概
念、2 生産の要素其一、労働、3 生産の要素其二、生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する
諸法則)、IV 交換の理論(1 交換と価格、2 需要、3 供給、4 価格、5 独占価格、6 複占価格、多占価格其
他、7 需要の異質性(不完全市場)、8 需要の連絡と供給の連絡、9 生産財の価格、10 一般均衡に於ける
価格)、V 分配の理論(1 総説、2 労銀、3 地代、4 利子、5 企業利潤、6 派生的所得)、VI 貨幣の価値(1 貨
幣の価値の概念、2 貨幣の価値の決定、3 貨幣の価値と利子歩合、4 相対価格と絶対価格、5 貨幣の対外
価値、6 国際価格)、VII 経済動態(1 景気変動の概念、2 景気変動の理論、3 景気変動に於ける循環性、4 景
気学説の吟味—其一、金融説、5 景気学説の吟味—其二、過剰投資説と過少消費説、6 加速度の原則と
投資乗数、7 資本主義経済の傾向)】

『回想記』改造社、1938年12月17日【1 海峡記(海峡の灯、晩春雑記、海峡の朝、北の海峡、雑詠抄其
一)、2 三日月村のこと(村の追憶、三日月村の家、断章 其一 雨、其二 郷村に帰つて、農村の人として、
雑詠抄其二)、3 旅とところどころ(長崎まで、追憶の上海、新京雑記、高千穂見聞記、下宿の追憶、雑詠
抄其三)、4 先輩の話(テニス教授逝く、与謝野先生(其一 田中村以後、其二 追憶記)、西川須賀雄氏
のこと、火群の思ひ出、恵利武さんのこと、全体社会そのほか、雑詠抄其四)、5 若き人々に(新学生道、
修養のためにすゝめる、指導者的精神の確立、旱天のうたそのほか[旱天のうた、小浜温泉にて、旅、
追憶、断章、さえこを憶ふ])、6 憂世雑記(無理由の原則、日本の強み、日本的学問とは何ぞや、農村観
断章、愛国としての節約、貧強—シャツの価格、婦人にまつものは何ぞ、風の言葉そのほか[風の言葉、
棕の葉、星])】

『経済原論(註) 京都帝国大学経済学部講義』黎明社、1939年4月3日

『東亜民族論』岩波書店、1939年6月10日【1 東亜民族の問題、2 東亜民族主義について、3 東亜民族主
義論、4 日本民族の自衛、5 東亜民族の形成、6 東亜民族の使命、7 東亜主義と東亜文化、8 支那民族の

話一貧の強さ一、9 支那の民族問題、10 資本主義の純粹理論、11 資本主義と戦争、12 余論】

勢力説に於ける存在拘束性『日本諸学研究報告 第五篇(経済学)』文部省教学局編、印刷局、1939年6月15日

帝国主義論『仏教思想講座 第二輯』東京帝国大学仏教青年会、1939年6月23日

消費節約について『東亜建設下の日本経済』朝日新聞社編・刊、1939年10月20日講演速記於[大阪朝日新聞社後援京都帝国大学経済学部創立廿年記念時局講演会]

雑詠『経済往来 第三号』<新経済学全集付録>経済往来社、1939年12月1日

研究の回顧『学生と科学』河合栄治郎編、日本評論社、1939年12月20日

『勢力論』<新経済学全集 28>日本評論社、1940年1月【I 勢力の分析(1 勢力の本質、2 勢力の意味法則—社会的勢力を基礎づけるもの、3 勢力の諸形態—その一、4 勢力の諸形態—その二)、II 勢力諸形態の關係(5 勢力の連帯と転形、6 勢力加速度の法則、III 勢力構造論(7 勢力の分配—其一意識的分配、8 勢力の分配—其二無意識的分配、9 全体社会の勢力構造)、IV 勢力変動論(10 支配に於ける集団と形態との変化、11 階級間の周流、12 階級組織に於ける変化)、V 結論的諸様相(13 世界に於ける勢力の作用、14 勢力と観念、15 勢力と経済)】

『改訂貧者必勝』千倉書房、1940年3月14日【1 追憶を語る(千反畑の家—熊本時代の思ひ出—、思想流転の記、武夫原の歌の作者、誠友団回顧、中林梧竹翁のこと、シュムペーター教授の印象、島原半島、京都より、誠友団回顧追録、虹の松原)、2 貧乏の話(国民皆貧論、道徳としての貧乏、貧者必勝の理、貧乏の話、民族と人口—与へられたる二方向—、貧乏について天野教授に答ふ、貧乏とは何ぞや—再び天野教授に答ふ—、三たび貧乏論批評に答ふ)、3 農村と政治の話(農村亡びんとす、日本の歩み—民族と階級の調和—)】

低物価政策の見直し—理論的考察『物価問題の再検討』<物価統制小委員会研究報告>日本学術振興会編、日本評論社、1940年4月12日[「低物価政策概観」と改題『民族と経済第二集』収録]

『勢力説』<日下講演叢書 第1号>東京帝国大学経済学部、1940年4月15日[『勢力論説集』収録]

『民族と経済』有斐閣、1940年5月5日【I 農村と人口(1 農村觀の二途、2 農業政策の前提、3 人口政策に就いて、4 人口政策の欠乏)、II 節約と物価騰貴(5 消費節約の問題、6 戦時の消費節約について、7 物価対策について、8 物価騰貴の問題、9 物価政策の帰結、10 増税のも一つの意義)、III 軍備と国力(11 租税と生活安定、12 軍備拡張の程度、13 軍備と生産力、14 国力の涵養)、IV 日本と東亜の問題(15 東亜の解放、16 日本民族の目標、17 東亜と民族原理、17 日本精神の一面—貧者必勝論の補註)】

『貧乏について』<講演集 第6編>石井氏還暦記念講演会、1940年6月24日

『新利子論研究』岩波書店、1940年7月2日【1 ケインズの利子理論、2 利子論の新旧、3 投資節約の均等について、4 貨幣的利子論の吟味、5 ケインズの乗数理論、6 失業と労銀、7 波動の内蔵性、8 波動内蔵性の分析、9 貨幣は被覆なりや、10 絶対価格の問題、11 貨幣の非中立性、12 貨幣の中立性について、13 完全予見の問題、14 貨幣本質に関する若干の問題、15 貨幣の本質について、16 貨幣と利子、17 利子動態説について】

『東亜に於ける日本の地位』<社会教育叢書>名古屋市役所、1940年3月30日

閉会の辞『日本経済政策学会年報』第1輯、日本経済政策学会編、日本評論社、1941年2月15日

勢力経済学の日本性[講演]『日本諸学振興委員会研究報告 第9篇 経済学』文部省教学局編、内閣印刷局、1941年4月25日[「勢力経済学の性質」と改題『経済学論』収録]

『思郷記』文芸春秋社、1941年11月20日【I(父の追憶、郷土を懐ふ、わが書齋の記、逸本記、五高の頃、五高水泳部史の一節、田中村のころ、探春記、山上雑感、塔の段展望、長崎行、つつじの花(雲仙長崎

の記)、新秋談義、オッペンハイマア氏のこと、オ教授会見記、オッペンハイマア氏の思想、現代学生
の為に、東洋服、丸刈りの話)、II(東亜民族の目標、民族の興亡、民族と人口、日本民族の生活能力、
日本文化と世界文化、国民生活の問題、忘れられた理論、偏頗な国民負担、国民生活の安定、新しき経
済倫理、最低の条件、戦争と文化形態、思想と人間性)】

『第二経済学概論』<理論経済学叢書 第15編>日本評論社、1941年11月25日【I 緒論(1 経済、2 資本
主義経済、3 経済学、4 経済理論の問題、5 若干の基本概念)、II 個別経済(1 二種の個別経済、2 家計、
3 企業—其の一、企業の本質、4 企業—其の二、企業の形態、5 企業—其の三、企業の結合、6 企業—其
の四、企業の統制、7 企業—其の五、企業の種類、8 市場、9 貨幣、10 貨幣制度)、III 生産の理論(1 生
産の概念、2 労働、3 生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する諸法則、7 供給と費用)、IV
交換の理論(1 交換と価格、2 需要、3 価格、4 独占価格、5 複占価格、多占価格其他、6 需要の異質性、
7 需要の連絡と供給の連絡、8 生産財の価格、9 一般均衡に於ける価格、10 動的均衡)、V 分配の理論(1 総
説、2 労銀、3 地代、4 利子、5 収益財の価格、6 企業利潤、7 派生的所得)、VI 貨幣の価値(1 貨幣の価
値の概念、2 貨幣の価値の決定—其一、3 貨幣の価値の決定—其二、4 貨幣の能動的作用、5 貨幣の対外
価値、6 国際価格)、VII 経済動態(1 経済動態、2 前進変動、3 景気変動の概念、4 景気変動の理論、5 景
気学説の吟味—其一、金融説、6 景気学説の吟味—其二、過剰投資説と過少消費説、7 加速度の原則と
投資乗数)、VIII 経済統制(1 経済統制に関する根本的諸概念、2 社会政策としての国家統制、3 景気政
策としての国家統制、4 統制経済、5 計画経済—其一、6 計画経済—其二、7 経済計算と将来の経済)】

『勢力説論集』<理論経済学叢書 第16篇>日本評論社、1941年12月5日【1 勢力説、2 勢力としての
価格、3 勢力抽象の経済理論、4 限界生産力説と勢力の問題、5 勢力説に於ける存在拘束性、6 経済と勢
力、7 勢力と経済—勢力説に対する批判—】【改版：『勢力説論集』惇信堂、1947年10月20日】

『民族と経済』【講演速記、文責在記者】<陵水叢書第1号>【彦根高等商業学校】陵水会、1942年2月15日
【上記速記を根本的に書き改め『民族耐乏』収録】

『民族論』岩波書店、1942年3月10日【1 民族の概念、2 近代民族、3 民族と国家、4 民族と階級、5 民
族と文化、6 民族主義と帝国主義、7 民族主義と資本主義、8 戦争と民族、9 民族周流論、10 民族融合
論】

追悼歌『若き哲学徒の手記』弘津正二著、山口書店、1942年6月25日

東亜通貨問題の一断面『支那の通貨と貿易』<日本学術振興会満蒙支経済第二特別委員会支那通貨特別分
科会報告>土方成美編、有斐閣、1942年8月28日【「東亜通貨の一断面」と改題『民族と経済 第二集』
収録】

『民族耐乏』甲鳥書林、1942年11月20日【民族耐乏、民族と経済、民族の運命、貧乏論回顧、塔の段談
義、民族の帰郷そのほか(1 民族の帰郷、2 民族の老衰、3 断章(①東亜の回復、②民族移動の問題、③広
狭の民族主義)、貧乏とは何か)】

解説『国民経済学の基本問題』オイケン著(大泉行雄訳)、実業之日本社、1943年8月20日

与謝野晶子先生を偲びて[1943年3月6日紫絃社主催与謝野晶子追憶講演会講演筆記]『白樺遺芳』菅沼宗
一郎編、紫絃社、1943年9月18日

序『時局と社会政策(2)』編著<日本学術振興会第四小委員会報告>日本学術振興会、日本評論社、1943年
10月10日

時局と国民生活【金持一郎との共著】『時局と社会政策(2)』編著<日本学術振興会第四小委員会報告>日
本学術振興会、日本評論社、1943年10月10日【『民族と経済 第二集』収録】

『洛北集』<歌集>甲鳥書林、1943年10月15日

『民族と経済 第二集』有斐閣、1943年10月20日【1 日本の民族と経済、2 日本民族の方向、3 広民族論、
4 東亜民族の問題、5 経済に於ける統制と体制、6 統制経済の進路、7 長期国策について、8 農業と人口、

9 低物価政策概観、10 日本経済の現実分析、11 東亜通貨の一断面、12 時局と国民生活、13 国民生活の計画化、14 経済倫理化の限界、15 経済理論の貧乏】

解説『景気不景気論』ハーバラー著(桑原晋訳)、実業之日本社、1944年1月15日

統制経済論『経済及経済学の再出発』神戸商大新聞部編、日本評論社、1944年1月20日[『経済の勢力理論』収録]

統制経済の組織『総力戦経済の研究』<手塚寿郎教授追悼記念論集『商学討究』第18巻特輯>小樽高等商業学校経済研究所、1944年3月10日

序『雲のかけら』<歌集>三宅雪枝著、鞍馬寺、1944年4月20日

序『毛布五十年』小林政治著、小林産業、1944年6月5日

『統制経済論』日本評論社、1944年7月20日【1 総説、2 国家と経済生活、3 統制経済の諸概念、4 社会政策景気政策としての国家統制、5 需給統制の諸方法、6 統制経済の組織、7 統制経済の運営、8 強制国営経済、9 自由国営経済、10 経済計算論、補論(1 経済計算と計画経済、2 統制に於ける需給均衡、3 条件統制と需給統制)】

創刊の辞『民族研究所紀要』第1冊、彰考書院創立事務所、1944年8月15日[民族研究所刊、1944年3月]

民族政策の基調『民族研究所紀要』第1冊、彰考書院創立事務所、1944年8月15日

ハイエク 資本の純粹理論 解説『資本の純粹理論』F.A.ハイエク著(一谷藤一郎訳)、実業之日本、1944年11月20日

第二回世界経済理論報告会速記『世界経済理論報告会記録 第2回』世界経済調査会、1944年11月20日[1943年10月16日世界経済理論報告会第2回会合(於華族会館)発言者：芦野弘、沢田節蔵、高田保馬(座長)、気賀健三、石橋湛山、生島広治郎、荒木光太郎、都留重人、三宅晴輝、渋沢信一、酒井正三郎、藤井茂、原口武夫、高島佐一郎、柳川昇、高橋泰蔵、今野源八郎、宇野弘蔵、新庄博、平井好一、市原章則、久保田明光、関根雄次、高垣寅次郎、塩野谷九十九、猪谷善一、塩沢昌貞]

東亜宣言の内在的批判『民族研究所紀要』第3冊下、1945年10月

利子と消費過少説『民族研究所科学論集』第1冊、民族研究所、1945年11月[「利子と消費過少説—ランゲの流動性説分析と消費過少説との吟味—」と改題『最近利子論研究』収録]

労働と失業—ビグウ、ケインズ、カルドアの異見—『民族研究所科学論集』第2冊、民族研究所、1945年11月[『最近利子論研究』収録]

いづれみな[短歌一首]『現代名歌選』<養徳叢書11>吉井勇著、養徳社、1945年12月20日[再版：1948年1月]

『終戦三論』有恒社、1946年5月5日【1 思想政策私見—思想と経済との回顧二十年—、2 民主の意義、3 食糧問題の核心、余論 新聞発行をめぐる】

『価格・労銀・失業』<東洋経済講座叢書 第9輯>東洋経済新報社、1946年11月28日【1 価格理論の発達、2 勢力均衡理論、3 利子、労銀、失業の相関、4 資本主義の限界】

『経済学原理』日本評論社、1947年5月20日【I 緒論(1 経済、2 資本主義経済、3 経済学、4 経済理論の問題、5 若干の基本概念)、II 経済の構造(1 二種の個別経済、2 家計、3 企業—其の一、企業の本質、4 企業—其の二、企業の形態、5 企業—其の三、企業の結合、6 企業—其の四、企業の業態、7 市場、8 貨幣の本質、9 貨幣制度)、III 生産理論(1 生産の概念、2 労働、3 生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する諸法則、7 供給と費用)、IV 価格の理論(1 市場と価格、2 需要、3 価格、4 独占価格、5 複占価格、多占価格其他、6 需要の異質性、7 需要の連絡と供給の連絡、8 生産財の価格、9 一般均衡に於ける価格)、V 分配の理論(1 総説、2 労銀、3 地代、4 利子、5 収益財の価格、6 企業利潤、7 派生的所得)、

VI 貨幣の価値(1 貨幣の価値の概念、2 貨幣の価値の決定—其一、3 貨幣の価値の決定—其二、4 貨幣の能動的作用、5 貨幣の対外価値、6 国際価格、7 国際通貨)、VII 総体経済(1 静態経済と動態経済、2 成長と発達、3 景気変動の概念、4 景気変動の理論、5 景気学説の吟味—其一、金融説、6 景気学説の吟味—其二、過剰投資説と過少消費説、7 波動過程の諸相—其一、経過の問題、8 波動過程の諸相—其二、相関の問題)、VIII 経済統制と計画経済(1 計画経済をめぐる根本的諸概念、2 社会政策としての国家統制、3 景気政策としての国家統制、4 統制経済、5 計画経済—其一、6 計画経済—其二、7 経済計算と将来の経済)

『経済学論』有斐閣、1947年5月20日【1 経済学論、2 経済学論の一節、3 勢力経済学序説、4 勢力経済学の性質、5 経済学の展望、6 社会政策の学問的性質】[『再版 経済学論』1948年6月10日]

『新利子論』有斐閣、1947年6月5日【1 新利子論序説、2 総説、3 利子の高さの決定、4 利子決定と漸次的接近、5 利子決定の階層、6 貨幣の干渉、7 利子労銀の交渉の本質、8 利子労働の交渉の諸相】

『社会歌雑記』甲文社、1947年6月10日【序説(1 社会歌といふこと、2 執筆の他のわけ、3 叙述の順序、『ふるさと』から(1 時期の区分、2 大正七年頃まで(京都)、3 大正八年から(広島、東京)、4 大正十四年から(九州))、『洛北集』から(1 昭和六年から(京都及び九州))、『洛北集』以後(1 終戦まで、2 終戦ののち)、思想回顧の一節、後記)】

『世界社会論』<世界経済学講座 第1巻>中外出版、1947年6月20日【1 世界社会といふことの意義、2 現実としての世界社会、3 世界社会の分析、4 補論—人種と結社体、5 世界経済、6 世界社会への道、7 内容よりの促進—其一、経済、8 内容よりの促進—其二、宗教と科学、9 世界国家への道】

『社会学の根本問題』関書院、1947年8月15日【1 社会の本質について、2 社会結合の形態、3 社会関係と社会過程、4 共同社会論覚書、5 国家に関する若干の省察、6 民族と国家】

『インフレーションの解明』関書院、1947年10月5日【1 インフレーションの解明、2 物価の問題—資金撒布と貯蓄との関係、3 管理通貨の本質、4 物価と労銀、5 貨幣発超について、6 物価の位置、7 経済の再建】

『洛北雑記』<随筆集>大丸印刷、1947年11月15日【前篇 思想集(望郷の記、ふるさとのこと、雲仙の友、帰郷記、師友の追想、わが青年のころ、無隣庵のこと、南天の実、はげ紅葉、秋葉記、流転、彦根回想[目次では「終戦回想」、塔段雑記、川音の記)、後篇 研究余録(中島重博士のこと、読書について、統制経済論の次に、ケインズの利子論、研究の回顧、社会学原理の前後、講義を終らんとして、生活水準について)】

『経済の勢力理論』実業之日本社、1947年11月20日【1 勢力説系譜、2 生産に於ける勢力、3 価格に於ける勢力、4 価格と所有、5 分配に於ける勢力、6 景気の勢力説、7 統制経済論、8 連関財についての覚書】

『社会主義経済学入門』<入門経済学叢書>広文社、1948年7月5日[広文堂、1950年9月1日]【1 社会主義経済学とは何か、2 社会主義の意味、3 社会主義の種々、4 労働価値説、5 資本家の蓄積の法則、6 資本主義没落の理論、7 再生産の問題、8 平均利潤率の問題、9 唯物史観、10 弁証法的唯物論、11 労働価値説の分析、12 資本家の蓄積の法則の吟味、13 資本主義没落論の吟味、14 唯物史観の分析、15 唯物史観と弁証法的唯物論との連絡、16 経済計算の問題、17 競争社会主義、18 競争社会主義の吟味、19 強制社会主義、20 強制社会主義の吟味、21 補論】

『経済原論』<政治大学講座 第6巻>通信教育協会、1948年7月25日【I 緒論(1 経済、2 資本主義経済、3 経済学、4 若干の基本概念)、II 個別経済(1 二種の個別経済、2 家計、3 企業—其一、企業の本質、4 企業—其二、企業の形態、5 企業—其三、企業の結合、6 市場、7 貨幣、8 貨幣制度)、III 生産の理論(1 生産の概念、2 労働、3 生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する諸法則、7 供給と費用)、IV 交換の理論(1 交換と価格、2 需要、3 価格、4 独占価格、5 需要の連絡と供給の連絡、6 生産財の価格、7 一般均衡に於ける価格)、V 分配の理論(1 総説、2 労銀、3 地代、4 利子、5 収益財の価格、6 企業利

潤、7 派生的所得)、VI 貨幣の価値(1 貨幣の価値の概念、2 貨幣の価値の決定—其一、3 貨幣の価値の決定—其二、4 貨幣の能動的作用、5 貨幣の対外価値)】

後記『輓近社会学論』[共編]米田庄太郎著<社会学叢書 第1冊>関書院、1948年8月1日

『最近利子論研究』有斐閣、1948年9月15日【1 ヒックス利子決定論の分析、2 ヒックス利子決定論の吟味、3 所得と制約—ヒックスに於ける此二の概念の分析—、4 投資と節約—toに於ける時間性—此点に関するヒックスとケインズとの接近度—、5 ヒックス利子理論について—安井琢磨教授に答ふ—、6 利子の資金説について—再び安井教授に答ふ—、7 ヒックスに於ける同時性の問題—三たび安井教授に答ふ—、8 資本不足説について—ランゲの資本不足説の分析と批評—、9 利子と消費過少説—ランゲの流動性説分析と消費過少説との吟味—、10 労銀と失業—ビッグウ、ケインズ、カルドアの異見—、11 節約投資の問題—理解科学の立場より—、12 乗数理論の問題—鬼頭教授「貨幣と利子の動態」について—、13 生産期間の問題】

国家と世界社会『国家と階級』<田辺寿利編『社会学大系』第3巻>国立書院、1948年10月30日[『社会学大系 第3巻』石泉社、1954年10月25日。復刻：日本図書センター、2007年]

『経済学方法論』小石川書房、1949年3月15日【緒言、1 理論的社会科学の性質、2 若干の補論、3 理論経済学の性質、4 若干の補論、5 経済理論と経済政策学】[改訂版：1950年<未見>]

『略説経済学』<経済学選書 第1冊>関書院、1949年3月31日【I 経済学の概念(1 経済学、2 若干の用語、3 学説概観)、II 価格形成と一般均衡(4 家計、5 需要と価格、6 企業、7 生産、8 費用と供給、9 生産物の価格決定、10 生産財の価格、11 生産の一般均衡)、III 捕捉的説明(12 独占と不完全競争、13 補完と代替、14 安定の問題、15 循環と発展)、IV 分配の理論(16 所得の概念、17 労銀及び失業、18 地代、19 利子、20 企業利潤、21 国民所得の構造)、V 貨幣の価値と貨幣からの干渉(22 貨幣及び貨幣制度、23 貨幣の価値、24 貨幣の対外価値、25 国際通貨と世界経済)、VI 発達と波動(26 経済発達と景気変動、27 景気変動の過程、28 波及の様相)、VII 経済の変容(29 統制経済、30 社会主義の概念、31 資本主義的計画経済、32 資本主義と社会主義)、附録(1 レオン・ワラスの一般均衡論、2 限界代用率、3 所謂ケインズ革命)】

『社会学の根本問題—改訂版—』関書院、1949年6月1日【1 社会の本質について、2 社会結合の形態、3 社会関係と社会過程、4 共同社会論覚書、5 国家に関する若干の省察、6 社会学と社会科学】

『労働価値説の分析』<社会主義経済学研究 第1巻>甲文社、1949年6月30日【1 労働価値説は支持し得らるるや、2 マルクス価値論の分析、3 マルクス労働価値説の概要[『マルクス経済学論評』第1論改題再録]、4 労働の異質性、5 労働価値説の史的地位、6 労働価値説と近代経済理論との結合は可能であるか、7 マルクス経済理論に関する感想】

マルクス経済学批判『マルクシズムに対決するもの—批判と反批判—』労働文化社、1949年8月15日

『日本民族の復興と経済』日本銀行貯蓄推進部、1949年12月5日講演【1 人類社会の将来、2 民族復興に関する悲観論、3 民族復興の主体的条件、4 日本経済の現状、5 安定恐慌論、6 経済安定の基本要件、7 貯蓄と耐乏、8 経済復興と共産主義の問題、9 マルクス主義理論批判、10 結論】

『社会学大意』日本評論社、1950年2月1日【I 社会学(1 社会学の変遷、2 人間社会の科学としての社会学、3 社会科学、社会法則)、II 社会構造論(4 社会の概念、5 社会の形態、6 全体社会の概念、7 全体社会の構造)、III 社会構造の形成(8 社会の形成、9 社会の分化、10 社会の統制—社会意識と社会組織)、IV 社会構造に関する諸法則(11 社会的定量に関する法則、12 社会関係の相関、13 部分社会間の逆行)、V 変動の方向(14 基礎社会の変動方向、15 派生社会の変動方向、16 全体社会の進路、17 史観の問題、18 社会変動と社会進化)】

セリグマン「租税転嫁論」解説『租税転嫁論 第1部 租税転嫁学説史』エドウィン・R.A.セリグマン著・井手文雄訳、実業之日本社、1950年2月1日

『マルクス貧困論考』＜社会主義経済学研究 第2巻＞甲文社、1950年2月20日【1 マルクス貧困論考、2 資本家的集積説の研究、3 人口問題の反批判―河上博士の批判に答ふ―、4 私の人口理論―那須博士の批評に答へて、5 人口に関する小論―向坂逸郎氏の批評に答ふ、6 過剰人口と資本主義の没落、7 人口と貧困―河上博士への反批判】

『改訂社会学概論』1950年3月1日[改版『社会学概論』岩波書店、1971年5月20日。復刊『社会学概論』＜高田保馬・社会学セレクション 3＞(ミネルヴァ書房、2003年)]【I 社会学(1 社会学、2 社会学の問題、3 社会学の方法)、II 社会の形成(1 社会の成立、2 社会の単純分化、3 社会の複合分化、4 社会の分散、5 社会意識、6 社会組織)、III 社会の形態(1 基礎社会と派生社会、2 結合に関する一般的法則、3 結合と分離との相関、4 諸社会の静的関係、5 基礎社会の発達方向、6 派生社会の発達方向、7 全体社会の変容、8 全体社会の構造変動)、IV 社会の結果(1 文化の発達、2 文化の発達過程、3 自由の伸展、4 個性の形成)、V 回顧と展望】

『日本民族の復興と経済の自立』改造社、1950年5月10日[一万田尚登との対談]

序『樞の鈴』＜歌集＞西村一平著、冬柏発行所、1950年6月5日

『社会科学通論』有斐閣、1950年6月25日【I 社会科学の性質(1 社会科学の多義性、2 法則科学と記述科学との対立、3 社会科学に於ける理解)、II 社会科学の区分(4 社会科学の区分と其対象、5 社会学と社会科学、6 特殊社会学の地位)、III 社会科学の方法(7 社会法則、8 社会科学の諸方法、9 静学と動学)、IV 社会科学の客観性(10 唯物史観、11 政策学の構造、12 社会科学の客観性)、V 社会科学の傾向と結論(13 社会学の部門と傾向、14 経済学の諸傾向、15 政治学の課題と分野、16 諸社会科学の共通基礎、17 諸社会科学の帰結―社会の方向―)】

『耐乏夜話』実業之日本社、1950年6月30日【1 キャンディ物語、2 耐乏の英吉利、3 煙草談義、4 耐乏論系譜、5 耐乏考、6 雨中私語、7 日本の経済的自立(1 自立のできぬ経済、2 資本のくひつぶし生産不足、3 消費インフレーション―独逸インフレーションとの距離、4 日本インフレーションの特性、5 安定恐慌論そのほか、6 独逸インフレーションに於ける安定恐慌、7 安定の後に来るもの、8 経済に奇術なし―耐乏の道、9 輸出計画の不安、10 増産に徹せよ―食糧の問題、11 食糧についての余論、12 工業の支柱、13 安定と自立)】

『マルクス批判』＜アテネ新書 19＞弘文堂、1950年8月10日【I 経済理論(1 序説、2 労働価値説、3 剰余価値説の意味するもの、4～6 資本主義の成熟と破局)、II 唯物史観論(7 唯物史観の輪郭と位置、8 唯物史観の分析、9 唯物史観の困難、10 唯物史観から第三史観へ)、III 唯物弁証法論(11 唯物弁証法の問題、12 マルクスに於ける唯物論、13 唯物弁証法に関する若干の分析、14 結論)】

『経済学説の展開』＜経済学入門 第1冊 学説篇＞有斐閣、1951年2月20日【1 叙述の筋道、2 経済学の自己展開、3 経済学の源流、4 正統学派の発達―其一、5 正統学派の発達―其二、6 正統学派の発達―其三、7 幾つかの修正―不完全競争と貨幣需要、8 景気論系譜―ケインズ学説まで、9 余論―エコノメトリックスの成立、10 マルクス学派経済学、11 社会学派経済学、12 経済学説の展望、13 研究の順序について】

『小経済学』＜経済学入門 第2冊 原理篇＞有斐閣、1951年6月1日【1 若干の用語―基本概念、2 価格理論の発達―其一 労働価値説と効用説、3 価格理論の発達―其二 一般均衡論、4 現代の価格理論―其一 選択の理論、5 現代の価格理論―其二 供給の分析と安定の問題、6、現代の価格理論―其三 生産財の価格、7 労銀対利潤、8 貨幣の干渉、9 経済の変動―其一 景気変動、10 経済の変動―其二 経済の前進、11 動態に於ける分配、12 失業の問題、13 ケインズの失業理論、14 ケインズ理論の構造】

*『講和と経済自立』福岡県貯蓄推進協議会編・刊、1951年10月＜九州大学図書館所蔵＞

『経済学講義 上巻』有斐閣、1951年11月25日【I 序説(1 本書の立場、2 経済とは何であるか、3 近代経済の二側面、4 経済学の性質と分野、5 基本概念の意義)、II 経済の構造(1 二種の個別経済、2 家計、3 企業―其一の一、企業の本質、4 企業―其二の一、企業の形態、5 企業―其三の一、企業の結合、6 企業―其の

四、企業の業態、7 市場、8 貨幣の本質、9 貨幣制度)、III 生産理論(1 生産の概念、2 労働、3 生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する諸法則、7 供給と費用)、IV 価格の理論(1 市場と価格、2 需要、3 価格と其決定、4 独占価格、5 複占価格、多占価格其他、6 需要の異質性、7 補完財と代用財、8 生産財の価格、9 一般均衡に於ける価格、10 均衡の条件と安定の条件、11 現実と予想)】

【無題】『米の統制撤廃に関する世論第 1 編』参議院農林委員会、1951 年 11 月

師匠のことば『二十代』誠文堂新光社、1952 年 2 月 28 日

『社会学』<社会科学叢書 第 3 冊>有斐閣、1952 年 9 月 20 日【I 社会学(1 社会学の変遷、2 人間結合の科学としての社会科学、3 社会科学、社会法則)、II 社会構造論(4 社会の概念、5 人間結合の二種、6 社会の形態、7 全体社会の概念、8 全体社会の構造)、III 社会構造の形成—其基礎的解明(9 社会の形成、10 社会の分化、11 社会の統制—社会意識の形態と拘束力、12 社会組織—其内容的方面と形式的方面)、IV 社会構造に関する諸法則(13 社会的定量に関する諸法則、14 社会関係の相関、15 部分社会間の逆行)、V 変動の方向(16 基礎社会の変動方向、17 派生社会の変動方向、18 全体社会の進路、19 史観の問題、20 社会変動と社会進化)】

*『東南アジアにおける日本の経済的地位について』日本太平洋問題調査会関西委員会、1952 年

『経済学講義 中巻』有斐閣、1953 年 1 月 20 日【V 分配の理論(1 分配の二様相、2 労銀、3 失業、4 地代、5 利子、6 資本還元の問題、7 企業利潤、8 派生的所得、9 所得分布の問題、10 国民所得の構造)、VI 貨幣の価値(1 貨幣の価値の概念、2 貨幣数量説、3 利子中心説、4 貨幣需要中心説、5 貨幣の流動性、6 貨幣政策 7 貨幣の対外価値、8 国際価格)】

『経済自立論』東洋経済新報社、1953 年 2 月 15 日【1 日本経済の長期方針、2 賃金と労働組合、3 日本経済の将来と四つの革命、4 ドッジ政策に於ける二つの盲点、5 貯蓄の第三義—ケインズ政策の批判、6 経済の安定と自立、7 民族の復興】

松本博士の社会学『松本潤一郎追憶』松本達治、1953 年 6 月 10 日

松本博士の追憶[「追憶文」]『松本潤一郎追憶』松本達治、1953 年 6 月 10 日

『全訂経済学原理』日本評論新社、1953 年 8 月 8 日【I 緒論(1 経済、2 資本主義経済、3 経済学、4 若干の基本概念)、II 経済の構造(1 二種の個別経済、2 家計、3 企業—其の一、企業の本質、4 企業—其の二、企業の形態、5 企業—其の三、企業の結合、6 企業—其の四、企業の業態、7 市場、8 貨幣の本質、9 貨幣制度)、III 生産の理論(1 生産の概念、2 労働、3 生産手段、4 生産の構造、5 生産費、6 生産に関する諸法則、7 供給と費用)、IV 価格の理論(1 市場と価格、2 需要、3 価格、4 選択の理論、5 独占価格、6 複占価格、多占価格其他、7 補完財と代替財、8 生産財の価格、9 一般均衡)、V 分配の理論(1 総説、2 労銀、3 失業、4 地代、5 利子、6 利子学説、7 企業利潤、8 派生的所得、9 所得分布の問題、10 国民所得の構造)、VI 貨幣の価値(1 貨幣の価値の概念、2 貨幣数量説、3 利子中心説、4 貨幣需要中心説、5 貨幣の能動作用と貨幣政策、6 貨幣の対外価値、7 国際価格)、VII 総体経済(1 静態経済と動態経済、2 均衡成長率の問題、3 景気変動の概念、4 景気変動の理論、5 景気学説の吟味—其一、貨幣説、6 景気学説の吟味—其二、過剰投資説と過少消費説、7 景気変動に関する形式理論)、VIII 経済統制と計画経済(1 計画経済をめぐる根本的諸概念、2 自由主義的統制経済—西欧系諸国、3 全体主義的統制経済—ナチス経済、4 強制国営経済—ソ連計画経済、5 自由国営経済—競争社会主義)】

序『資本蓄積と雇用』<編著>大阪大学経済学会、1953 年 12 月 30 日

資本蓄積と減価償却『資本蓄積と雇用』<編著>大阪大学経済学会、1953 年 12 月 30 日

三つ児の魂『小さな自画像 わが幼き日“101 人集”』朝日放送編<朝日文化手帖 29>、朝日新聞社、1954 年 6 月 30 日

『経済学概説』有斐閣、1954 年 7 月 5 日【I 経済学の概念(1 経済学、2 若干の用語、3 学説概観)、II 価格形成と一般均衡(4 家計、5 需要と価格、6 企業、7 生産、8 費用と供給、9 生産物の価格決定、10 生産

財の価格、11 生産の一般均衡)、III 捕捉的説明(12 独占と不完全競争、13 補完と代替、14 安定の問題、15 循環と発展)、IV 分配の理論(16 所得の概念、17 労銀及び失業、18 地代、19 利子、20 企業利潤、21 派生所得の形成、22 国民所得の構造)、V 貨幣の価値と貨幣からの干渉(23 貨幣の価値、24 貨幣の対外価値、25 国際価格)、VI 総体経済(26 総体経済の概念、27 総体経済の分析用具―若干の基礎概念、28 経済成長と景気変動、29 景気変動、30 景気変動の過程)、VII 経済の変容(31 統制経済、32 社会主義の概念、33 社会主義的計画経済、34 資本主義と社会主義)【『経済学概説(新版)』有斐閣、1965年9月1日】

序『経済成長の研究 第一巻』【編著】<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第1冊>有斐閣、1954年8月1日

成長率の考察『経済成長の研究 第一巻』【編著】<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第1冊>有斐閣、1954年8月1日

『高岡熊雄博士・高田保馬博士対談録』日本銀行札幌支店、1954年11月【序文】

『ケインズ論難一勢力説の立場から』<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第2冊>有斐閣、1955年3月10日【I 総説(1 序論―ケインズとシュンペッタ、2 ケインズ経済学の骨組)、II 労銀の問題(3 序説―労銀理論の側面観、4 労銀理論の反省―ケインズをめぐる)、5 一の社会学的経済理論―ケインズ理論の含蓄)、III 利子の問題(6 序論―ケインズ利子理論の輪郭、7 利子理論に関する覚書―ケインズ利子論批判を中心として、8 利子率の制度性)、IV 消費函数の問題―乗数理論の問題を含めて(9 序論―ケインズ消費函数の構想、10 二の消費函数、11 投資乗数の問題)、V 資本主義停滞の問題(12 停滞問題の輪郭、13 投資函数の問題、14 資本主義の停滞)、VI 結論(15 勢力説への道)】

『経済学講義 下巻』有斐閣、1955年5月1日【VII 総体経済(1 総体経済の概念、2 静態経済と動態経済、3 総体経済の分析用具―若干の基礎概念、4 若干の補説、5 経済成長の問題、6 景気変動の諸概念、7 景気循環の諸段階、8 景気理論の定型、9 景気循環に関する種々の学説―其一、貨幣的景気論、10 其二、非貨幣的景気論―過剰投資説と過少消費説、11 景気形式理論、12 変動の諸形態の複合)、VIII 統制経済と計画経済(1 計画経済をめぐる根本的諸概念、2 自由主義的統制経済―西欧系諸国の問題、3 全体主義経済―ナチス経済、4 強制国営経済―ソ連計画経済、5 自由国営経済―競争社会主義、6 更生経済の思想)】

解説『下村湖人集』<昭和文学全集 58>角川書店、1955年5月15日

『貧しき日本経済』日本評論新社、1955年6月15日【I 序説(1 ケインズ政策の吟味)、II 日本経済物語(2 拡大均衡をめぐる、3 貧しき日本経済―理論人の見たる、4 生産主義の過誤―生産主義とインフレーション―、5 経済の長期方針、6 経済自立に関する二章(1 耐乏と自立、2 自立の難道))、III 後進日本の問題(7 東南アジアの問題、8 日本経済の独立)、IV 経済水書(9 経済のお天気、10 ストの経済学、11 繁栄予算、12 日本経済は好転せず、13 日本経済の病状)】

経済進歩『経済学大辞典Ⅱ』東洋経済新報社、1955年9月30日

解説『下村湖人全集 第一巻 次郎物語 第一部』池田書店、1955年4月30日

解説『下村湖人全集 第二巻 次郎物語 第二部』池田書店、1955年5月20日

解説『下村湖人全集 第三巻 次郎物語 第三部』池田書店、1955年6月5日

解説『下村湖人全集 第四巻 次郎物語 第四部』池田書店、1955年6月20日

解説『下村湖人全集 第五巻 次郎物語 第五部』池田書店、1955年7月10日

解説『下村湖人全集 第六巻 魂は歩む 若き建設者』池田書店、1955年8月20日

解説『下村湖人全集 第七巻 この人を見よ―田沢義鋪の生涯 田沢義鋪の人間像とその業績 二人の平和主義者』池田書店、1955年9月20日

解説『下村湖人全集 第八卷 論語物語』池田書店、1955年10月20日

解説『下村湖人全集 第九卷 人生を語る 人間生活の意義』池田書店、1955年12月20日

『消費函数の研究』<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第5冊>有斐閣、1956年2月1日【緒言、1 二の効用と階級財、2 デュウゼンベリ消費函数論の分析、3 欲望の構成についての覚書、4 私見の展開系譜、5 補論[共著]—クラワ—の需要理論】

解説『下村湖人全集 第十卷 心窓去来 心窓去来補遺』池田書店、1956年2月10日

解説『下村湖人全集 第十一卷 凡人道 真理に生きる』池田書店、1956年4月20日

序『一教育家の面影—下村湖人追想—』新風土会、1956年4月20日

下村湖人の人と作品『一教育家の面影—下村湖人追想—』新風土会、1956年4月20日

解説『下村湖人全集 第十六卷 現代訳論語』池田書店、1956年7月20日

解説『下村湖人全集 第十二卷 人生隨想』池田書店、1956年8月20日

解説『下村湖人全集 第十三卷 煙仲間』池田書店、1956年9月15日

解説『下村湖人全集 第十四卷 教育の新理念と農村文化 塾風教育と協同生活訓練』池田書店、1956年11月1日

『社会主義評論』自由アジア社、1956年11月15日【I 二つの社会主義(1 二つの社会主義、2 分配の社会主義[大阪経済倶楽部講演])、II 『経済学教科書』の検討(3 『経済学教科書』の分析と批評、4 『経済学教科書』の経済理論の吟味)、III マルクス経済学の常識(5 マルクス経済学の輪郭、6 マルクス経済学の吟味、7 マルクス唯物史観をめぐる覚書)、IV 補論(8 経済学説の動き—日本経済の現状分析をめぐる)、9 思想転変)】

夏草の跡[「付録 回想録」]『京都大学文学部五十年史』京都大学文学部、1956年11月23日

An introduction to sociological economics, Science Council of Japan, Division of Economics & Commerce, 1956【I. Introductory Notes on Sociological Economics, II. An Implication of Keynesian Economics—A Note on Involuntary Unemployment, III. A Third Theory of Wages, IV. Power and Stagnation, V. Two Consumption Functions: Static and Dynamic, VI. Power and Economy—Some Counter-Criticisms on Power Theory in Economics—】

解説『下村湖人全集 第十五卷 隣人 詩歌集』池田書店、1957年1月25日

『学問遍路』東洋経済新報社、1957年2月5日【終戦前後のこと、追放のあとあぢ、百鳥居の記、三日月村から、南船北馬、待兼山に入る、社会学への郷愁、勢力説を語る、春宵別離、来日学者の印象、民族主義のこと、村居雑記】

はしがき『戦後の経済成長と景気循環』[編][出版者不明]、1957年2月

戦後の景気循環の特質について—問題の所在—[稲葉四郎との共著]『戦後の経済成長と景気循環』[編][出版者不明]、1957年2月

本研究叢書の刊行について『経済成長の研究 第二巻』[編著]<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第6冊>有斐閣、1957年3月10日

編者序『経済成長の研究 第二巻』[編著]<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第6冊>有斐閣、1957年3月10日

自然成長率の再考察『経済成長の研究 第二巻』[編著]<大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第6冊>有斐閣、1957年3月10日

解説『下村湖人全集 第十七巻 書簡集』池田書店、1957年3月30日

解説『下村湖人全集 第十八巻 補遺』池田書店、1957年5月25日

本研究叢書の刊行について『経済成長の研究 第三巻 一経済の成長と安定一』[編]＜大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第9冊＞有斐閣、1957年8月1日

編者序『経済成長の研究 第三巻 一経済の成長と安定一』[編]＜大阪大学経済学部社会経済研究室研究叢書 第9冊＞有斐閣、1957年8月1日

企業利潤の再考察『久保田明光教授還暦記念論文集』久保田明光先生還暦記念会、東京創元社、1957年9月8日

中央銀行問題についての私見『中央銀行制度の基本問題に関する意見』中央銀行制度特別委員会、1958年7月25日提出

勢力説の展開—経済学における私見の自己検討—『経済の安定と進歩 中山伊知郎博士還暦記念論文集』東洋経済新報社、1958年9月25日

巻末記『闘争か協力か』滝正雄著、滝正雄著作刊行会、1958年10月20日

序『鉄幹と晶子』菅沼宗四郎著、有賀精、1958年11月3日

あとがき『中島哀浪全集下巻』中島哀浪全集刊行会、1958年12月10日

『勢力論』有斐閣、1959年1月10日[復刻『勢力論』＜高田保馬・社会学セレクション 1＞(ミネルヴァ書房、2003年)] **【I 勢力の分析(1 勢力の本質、2 勢力の意味法則—社会的勢力を基礎づけるもの、3 勢力の諸形態—その一、4 勢力の諸形態—その二)、II 勢力諸形態の関係(5 勢力の連帯と転形、6 勢力加速度の法則、III 勢力構造論(7 勢力の分配—其一意識的分配、8 勢力の分配—其二無意識的分配、9 全体社会の勢力構造)、IV 勢力変動論(10 支配に於ける集団と形態との変化、11 階級間の周流、12 階級組織に於ける変化)、V 結論的諸様相(13 世界に於ける勢力の作用、14 勢力と観念、15 勢力と経済)】**

随筆集『林間荘雑筆』を讀みて『萬造寺齊選集 第七巻』万造寺齊顕彰会、1959年2月1日

『経済の構造』＜経済学入門 第3冊 構造編＞有斐閣、1959年5月25日 **【1 経済構造の概念、2 家計、3 消費函数、4 家計の組織、5 会計の原則、6 企業、7 生産函数、8 生産函数の変動、9 企業の組織、10 企業の社会的組織、11 企業と産業、12 企業、家計、市場、13 国家と外国との経済循環への介入、14b 物財の構造—循環と流転、15 全面的交換の—ワラス、カッセル、16 全面的交換の二—レオンチェフ、17 全面的交換の三—余論、18 国民所得の問題、19 国民資本の概念、20 国民所得の決定、21 国民所得の構成、22 社会会計の構図、23 経済構造に於ける社会的側面】**

中央銀行問題にについての私見『中央銀行制度 金融制度調査会関係資料』大蔵省銀行局編、大蔵省印刷局、1959年5月25日

力の欲望と唯物史観『社会学の問題と方法 新明博士還暦記念論文集』新明博士還暦記念論文集刊行会、有斐閣、1959年6月30日[金子勇編『高田保馬リカバリー』(ミネルヴァ書房、2003年)収録]

『マルクス経済学の批判』＜新教育懇話会叢書 第1集＞新教育懇話会、1959年8月[再版：1960年2月10日]

『社会主義経済学』千倉書房、1959年12月10日 **【I 序説(1 社会主義経済学とは何か 2 社会主義の意味、3 社会主義の種々)、II マルクス経済学(4 労働価値説、5 資本家的蓄積の法則、6 資本主義没落の理論、7 再生産と平均利潤、III 唯物史観(8 唯物史観、9 弁証法的唯物論)、IV マルクス経済学説の批判(10 労働価値説の分析、11 資本家的蓄積法則の吟味、12 資本主義没落論の吟味)、V 唯物史観批判(13 唯物史観の分析、14 唯物史観と弁証法的唯物論との連絡)、VI 現代の社会主義学説(15 経済計算の問題、16 競争社会主義、17 競争社会集の吟味、18 強制社会主義)、VII 結論(19 現実における社会主義、20 強制社**

会主義の吟味、21 補論—マルクスとケインズ—】

日本銀行制度に関する答申ならびに説明書(第一次案)についての私見報告『中央銀行制度 金融制度調査会
答申及び関係資料』大蔵省銀行局編、大蔵省印刷局、1960年12月20日

わらべの頃[「わらべうた随筆」]『佐賀のわらべうた』坂根巖夫・福岡博・平田悦朗編、音楽之友社、1960年
12月20日

岩崎博士との因縁『岩崎卯一先生の追憶』関西大学雄弁会、1961年9月20日

『望郷吟』<歌集>日本評論新社、1961年11月1日[序文：窪田空穂「高田博士の第三歌集に寄す」]

序『保険界夜話』二神弘著、保険タイムス社、1962年3月10日

経済学—第1回—[稲葉四郎と共同執筆]『会計士二次試験総合講座 第6巻』中央経済社、1962年6月
5日【1 経済と経済学、2 家計と消費、3 企業と生産、4 市場と均衡価格】

巨視的分配論について—カルドア学説の分析—『経済と金融の諸問題 森川太郎博士還暦記念論文集』森
川太郎博士還暦記念会、ミネルヴァ書房、1962年6月10日

経済学—第2回—[稲葉四郎と共同執筆]『会計士二次試験総合講座 第7巻』中央経済社、1962年6月
30日【4 市場と均衡価格、5 所得の分配、6 貨幣の価値、7 線型経済学初歩】

デモクラシイとは何か『教師の使命 教育研究大会講演集』日本教育協議会篇、洋々社、1963年2月5日

理論社会学の性質について『社会学における理論と実証 蔵内博士退官頌壽記念論文集』培風館、1963年
9月20日[金子勇編『高田保馬リカバリー』(ミネルヴァ書房、2003年)収録]

『貯蓄の経済観』貯蓄増強中央委員会、1964年3月【序説 消費率の問題、前篇 ケインズ不況論の性格、
後篇 貯蓄をめぐる分析】

開かれたる愛国心『国家をどう教えるか』<教師会叢書1>日本教師会編、日本教師会出版部、1964年8
月1日[『文献選集《愛国心》と教育 第5巻』(日本図書センター、2007年)収録]

解説『下村湖人全集 第九巻 人生を語る 人間生活の意義 煙仲間』池田書店、1965年2月20日

福祉社会における経営者の責務『経営の福祉化』<『人口問題資料』73>人口問題研究会、1965年2月

解説『下村湖人全集 第六巻 人生随想 この人を見よ』池田書店、1965年3月20日

解説『下村湖人全集 第八巻 真理に生きる 書簡 新風土便り』池田書店、1965年4月20日

追憶の記『関桂三氏追懐録』関桂三氏追懐録刊行会編・刊、1965年5月2日

解説『下村湖人全集 第五巻 論語物語 現代訳論語』池田書店、1965年5月15日

解説『下村湖人全集 第四巻 凡人道 我等の誓願 隣人 詩歌集』池田書店、1965年5月30日

解説『下村湖人全集 第七巻 若き建設者 教育論集』池田書店、1965年6月30日

解説『下村湖人全集 第一巻 次郎物語 第1-2部』池田書店、1965年7月10日

解説『下村湖人全集 第二巻 次郎物語 第3-4部』池田書店、1965年7月30日

解説『下村湖人全集 第三巻 次郎物語 第5部』池田書店、1965年8月15日

解説『下村湖人全集 第十巻 心窓去来 心窓去来補遺』池田書店、1965年8月30日

高田保馬先生の巻[インタビュー記録]『思いで草 創立五十年記念』[第1集]京都大学経済学部編・刊、1969年
7月10日

弔詞[1957年4月12日、大平駒槌への弔詞]『貧民救護事業下調「解読文」並に参考資料』清徳記念福祉室編・刊、1989年4月1日

高田保馬先生挽歌[3首]『貧民救護事業下調「解読文」並に参考資料』清徳記念福祉室編・刊、1989年4月1日

Principles of sociology, introduction by Ken'ichi Tominaga, University of Tokyo Press, 1989

Power theory of economics, translated by Douglas W. Anthony ; foreword by Michio Morishima, St. Martin's Press in association with the Suntory Foundation Osaka, Japan, 1995<Classics in the history and development of economics>

新明正道宛書簡7通[1925年12月22日、[1926年]2月14日、1937年5月31日、1940年4月18日、1949年7月13日、1950年11月28日、1961年4月18日]『新明社会学の研究—論考と資料—』山本鎮雄・田野崎昭夫編、時潮社、1996年10月14日

Power or pure economics?, Joseph A. Schumpeter and Yasuma Takata, ed. by Michio Morishima, tr. by Cyprian P. Blamires and Janet Hunter, 1998<Classics in the history and development of economics>

民族主義の問題[1943年11月13日特別講演]『「民族研究講座」講義録』<国際常民文化研究叢書11>神奈川県立国際常民文化研究機構、2015年3月1日

民族政策論[1943年12月17日講義]『「民族研究講座」講義録』<国際常民文化研究叢書11>神奈川県立国際常民文化研究機構、2015年3月1日

2. 論文等<960 篇>

1993(明治 36)年

社会主義と詩人『龍南会雑誌』101、10月24日

没理想郷と競争『龍南会雑誌』102、11月25日

[「小詩会詠草」無題短歌 10 首]『龍南会雑誌』102、11月25日<<天山>>

1994(明治 37 年)

東欧の大聖を懐ふ『龍南会雑誌』105、3月13日

旭光[「新体詩」]『龍南会雑誌』105、3月13日<<天山>>

わが牢獄観『龍南会雑誌』106~108、5月25日、10月28日、11月30日

低き声[「文苑」]『龍南会雑誌』107、10月28日<<夕闇、夕陽、天山の共著>>

1995(明治 38)年

擱筆の辞『龍南会雑誌』110、3月10日[連名：平井三男、内田虎六、佐々木良綱、太田黒作次郎]

感情の侮辱『龍南会雑誌』112、6月19日

低唱[「文苑」]『龍南会雑誌』113、11月3日<<天山>>

我涙の記[「文苑」]『龍南会雑誌』114、11月23日<<天山>>

暗森[「和歌」]『龍南会雑誌』114、11月23日<<高田天山>>

1996(明治 39)年

非詩[「文苑」]『龍南会雑誌』116、11月28日<<天山>>

愁夫吟[「文苑」]『龍南会雑誌』118、月日未詳<<天山>>

1910(明治 43)年

家族の崩壊が社会の団結に及ぼす結果『芸文』1-8、11月1日[「家族の将来と社会の団結」と改題『社会学的研究』収録、初出を『家族・家族制度論 1』<家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第1巻>(クレス出版、2000年)収録]

1911(明治 44)年

社会的法則に就きて『芸文』2-1、1月1日[「社会的法則について」と改題『社会学的研究(増訂版)』収録]

社会科学の研究『芸文』2-5、5月1日

文明の迷妄『芸文』2-7、7月1日[「現代文明の迷妄—生産政策の否定」と改題『社会学的研究』収録]

1912(明治 45・大正元)年

- 職業の尊卑を論ず『芸文』3-3、5、6、3月1日、5月1日、6月1日[『階級考』収録]
社会法則ノ特質ヲ論ズ[「雑録」]『国民経済雑誌』12-4、4月1日
遊戯としての社会生活『芸文』3-8、8月1日[『現代社会の諸研究』収録]
社会進化論の性質『哲学雑誌』307、9月10日[『社会学的研究』収録]
レオン・ワラア及ピロザヌ学派[「雑録」]『国民経済雑誌』13-5、6、11月1日、12月1日
資本家の集積説ノ研究[「雑録」]『京都法学会雑誌』7-12、9-3、12月1日、**1914年**3月1日[『社会学的研究』『マルクス貧困論考』収録]
フィエエ逝く『芸文』3-12、12月1日

1913(大正 2)年

- 左右田博士ノ「経済法則ノ論理的性質」ヲ読ム[「雑録」]『京都法学会雑誌』8-1、4、1月1日、4月1日<滝正雄と共同執筆>
分業の意識及び形態『国家学会雑誌』27-2、2月1日
観念カノ社会学[「雑報」]『京都法学会雑誌』8-7、7月1日
ロシアノ「進化論ノ進化」[「雑録」]『京都法学会雑誌』8-8、8月1日
『ユウゼニックス批判』[「雑報」]『京都法学会雑誌』8-8、8月1日
社会心理的現象トシテノ価格[「雑報」]『京都法学会雑誌』8-9、9月1日
社会法則論『哲学雑誌』319、320、9月10日、10月10日
経済的条件ノ出生率ニ及ホス影響[「雑報」]『京都法学会雑誌』8-11、11月1日

1914(大正 3)年

- 唯物史観ノ論理的組立[「雑報」]『京都法学会雑誌』9-2、2月1日
社会結合の研究について『芸文』5-4、4月1日[『社会学的研究(増訂版)』収録]
社会結合に関する利益説と類似説『芸文』5-5、5月1日
分離論『日本社会学院年報』1-4・5、6月23日[『社会学的研究』収録]
社会法則ノ性質[「雑録」]『京都法学会雑誌』9-7、7月1日[『社会学的研究』収録]
統計学ノ性質ニツイテ[「雑報」]『京都法学会雑誌』9-7、7月1日[『台湾統計協会雑誌』107、12月10日に転載]
高城ドクトルノ数理上ノ矛盾[「雑録」]『京都法学会雑誌』9-8、8月1日
フォルヘルノ統計学本質論[「雑報」]『京都法学会雑誌』9-8、8月1日[『経済学研究』収録]
社会結合に関する家族説『芸文』5-8、8月1日
社会結合に関する反覆作用説『芸文』5-10、10月1日

社会的定量『無尽燈』19-10、11、10月5日、11月5日[『社会学的研究』収録]

国民性同化ノ問題[「雑報」]『京都法学会雑誌』9-11、11月1日

三年兵役制批議[「雑報」]『京都法学会雑誌』9-12、12月1日

統計的方法ト帰納法[「雑録」]『京都法学会雑誌』9-12、10-1、12月1日、**1915年**1月1日[『台湾統計協会雑誌』110、111、3月10日、4月10日に転載。『社会学的研究』収録]

社会結合の根本過程『芸文』5-12、12月1日[『社会学的研究(増訂版)』収録]

1915(大正4)年

フィッシャア氏物価騰貴論ノ方法ヲ難ズ[「雑録」]『京都法学会雑誌』10-3、4、3月1日、4月1日[『経済学研究』収録]

所得分配変化ノ計算法[「雑報」]『京都法学会雑誌』10-4、4月1日[「所得分配の考察に就いて」と改題『経済学研究』収録]

社会意識ト何ゾヤ[「雑報」]『国民経済雑誌』18-5、5月1日

社会意識ノ拘束カヲ論ズ[「雑録」]『京都法学会雑誌』10-6、6月1日

経済状態ノ指数ニ就イテ[「雑報」]『京都法学会雑誌』10-6、6月1日

麦ノ収穫ト米価[「雑報」]『経済論叢』1-1、7月1日

米ノ豊凶ト米価[「雑録」]『経済論叢』1-2、8月1日[「米価とキングの法則」と改題『経済学研究』収録]

社会構成の原理としての欲望の並行『芸文』6-8、10、12、8月1日、10月1日、12月1日[『社会学原理』収録]

収穫ノ増減ト価格ノ変動[「雑報」]『経済論叢』1-3、9月1日

社会政策学会第九回大会記事[「雑録」]『経済論叢』1-6、12月1日

1916(大正5)年

本邦出生率増加ノ原因『経済論叢』2-1、3、1月1日、3月1日[『台湾統計協会雑誌』124、126、5月10日、6月10日に転載。「日本に於ける出生率増加の原因」と改題『現代社会の諸研究』収録]

文明か幸福か『洪水以後』1、1月1日

小国ノ将来[「雑録」]『経済論叢』2-2、2月1日

貧民ノ体力に就イテ[「雑録」]『経済論叢』2-4、4月1日

経済学読書会記事[「雑録」]『経済論叢』2-4、4月1日

社会階級別ト出生率トノ関係『経済論叢』2-5、5月1日[「貧富と出生率」と改題『社会学的研究』収録]

まるさす人口論ノ評論ヲ主題トセル論著[「書目」]『経済論叢』2-5、5月1日

Malthus Anniversary[「記事」]『経済論叢』2-5、5月1日

社会意識の成立『哲学研究』1-2、5月1日

生死減少逆行ノ法則—人口学的征服『経済論叢』2-6、6月1日[『社会学的研究』収録]

- 社会の本質に関する考察[「雑録」]『哲学研究』1-3、6月1日
 異質結合論『日本社会学院年報』3-3・4・5、6月15日[『社会学原理』収録]
 乳児死亡率ト出生率トノ関係[「雑録」]『経済論叢』3-1、7月1日[『経済学研究』収録]
 国際経済論 服部文四郎著[「新刊紹介」]『哲学研究』1-4、7月1日
 優生学 文学士斎藤茂三郎著[「新著紹介」]『哲学研究』1-5、8月1日[「優生学是非」と改題『社会学的研究』収録]
 課税ト独占価格『経済論叢』3-4、5、10月1日、11月1日[『経済学研究』収録]
 人口ト労働ノ趨勢[「雑録」]『経済論叢』3-6、12月1日

1917(大正 6)年

- 原始乱婚ニ就イテ[「雑録」]『経済論叢』4-1、1月1日[「婚姻 2」<家族研究論文資料集成 明治大正昭和前期篇 第18巻>(クレス出版、2001年)収録]
 ウォードの社会学 藤森達三訳[「新刊紹介」]『哲学研究』2-1、1月1日
 民族心理講話 米田庄太郎著[「新刊紹介」]『哲学研究』2-4、4月1日
 社会の全体と部分『哲学研究』2-6、6月1日[『社会学原理』収録]
 基礎社会ノ発達ニツイテ[「雑録」]『経済論叢』5-1、7月1日
 社会的錯綜について『芸文』8-7、7月1日[「動的相互関係の説明」と改題『社会学原理』に収録]
 社会学ト社会科学『経済論叢』5-6、6-1、3、12月1日、1918年1月1日、3月1日[「社会学の概念」と改題『社会学原理』に収録]

1918(大正 7)年

- 社会階級の将来[談]『青年』6-1、1月1日
 物価ト割引歩合トノ平行[「雑録」]『経済論叢』6-4、4月1日[『経済学研究』収録]
 分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヘヲ乞フ『経済論叢』6-6、7-1、6月1日、7月1日[前半部分を「分業に就いて」と題して『社会学的研究』収録]
 飯島学士訳経済学原論ヲ読ム[「雑録」]『経済論叢』7-2、8月1日
 所得ノばれーと線ニ就イテ『経済論叢』7-6、12月1日[『現代社会の諸研究』収録]
 戦争と文化[研究報告]『日本社会学院年報』6-1・2・3、12月27日

1919(大正 8)年

- 戦争と文化『経済論叢』8-1、2、1月1日、2月1日[『現代社会の諸研究』収録]
 為替価値に関するカッセル説に就いて[「雑録」]『経済論叢』8-2、2月1日[『経済学研究』収録]
 収益の丘を論ず『経済論叢』8-3、3月1日[『現代社会の諸研究』収録]
 将来社会観の種々[「雑録」]『哲学研究』4-3、3月1日[「ジメルとスペンサアとの将来社会観」と改題『現

代社会の諸研究』収録]

紙幣の減価に就いて『経済論叢』8-4、6、4月1日、6月1日[『経済学研究』収録]

「社会学的研究」ノ批評ニ答フ[「雑録」]『国民経済雑誌』26-4、4月1日

集産主義ノ社会学的考察『国民経済雑誌』26-5、6、5月1日、6月1日[『現代社会の諸研究』収録]

ギルドソシアリズムの社会学的考察『政治学経済学論叢』<同志社大学>1-2、5月10日[「ギルドソシアリズム」の社会学的考察]と改題『現代社会の諸研究』収録]

最近の出生率減少に就いて(内閣統計局の見解に対する一二の疑問)『経済論叢』9-1、7月1日[『現代社会の諸研究』収録]

私の観た人種問題『大阪毎日新聞』10~16日[『大正編年史 大正八年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1981年)収録、「人種問題私見」と改題『現代社会の諸研究』収録]

社会学を学ぶ人のために『学校教育』73、8月1日

社会問題の中核『学校教育』76、11月1日[『階級考』収録]

拙著「社会学原理」の批評に答ふ[「雑録」]『哲学研究』4-12、12月1日

1920(大正9)年

社会連帯に就いて『大阪毎日新聞』1月6~11、13、14日[『階級考』『改版 階級考』収録]

改造の矛盾『大阪朝日新聞』1月7、9~11、17日[「国内の階級と国際の階級」と改題『階級考』『改版 階級考』収録]

コオルの産業自治論[「新学説及新思潮の紹介」]『我等』2-1、1月1日

社会組織に就いて『学校教育』79、2月1日

社会の存続『経済論叢』10-3、3月1日[『社会学概論』収録]

「政党と民衆」『解放』2-4、4月1日

結合ニ関スル一般的法則『国民経済雑誌』28-4、5、4月1日、5月1日[『社会学概論』収録]

分離の一般性質『商業及経済研究』18、5月1日[『社会学概論』収録]

都市生活と社会連帯主義『大横浜』17-5、5月10日

諸種の社会の相互関係『哲学研究』5-6、6月1日[「諸社会の静的関係」と改題『社会学概論』収録]

結合と分離との関係『学校教育』85、7月1日

基礎社会の発達方向『経済論叢』11-2、3、7月1日、8月1日[『社会学概論』収録]

1921(大正10)年

天体の姿と社会の姿『明星』1-2、12月1日

1922(大正11)年

社会の団結の減衰『経済論叢』14-1、1月1日[『社会と国家』収録]

- 社会の分化に就いて『思想』4、1月1日[「部分社会の分化」と改題『社会と国家』収録]
- 社会の地域的解放『哲学研究』7-1、1月1日[『社会と国家』収録]
- 国家と社会との関係『日本法政新誌』19-1、1月1日
- 自由に関する一考察『改造』4-2、2月1日[「自由の増進」と改題『社会学概論』収録]
- 大久保より『明星』1-4、2月1日
- 文化生産者としての社会『商学研究』1-3、2月28日[『社会学概論』第4篇第1・2章に収録]
- 行人の歌[短歌12首]『明星』1-5、3月1日
- 経済静学観—クラークを中心として見たる『国民経済雑誌』32-3、4、3月1日、4月1日[『経済学研究』収録]
- 社会に於ける国家の地位『国家学会雑誌』36-3、3月1日[『社会と国家』第5章第3節に収録]
- 社会法則論の一節『思想』7、4月1日
- 階級に就いて『経済論叢』15-3、4、16-2、3、5、9月1日、10月1日、**1923年**2月1日、3月1日、5月1日[「社会的勢力の性質—階級構造の分析」と改題『階級及第三史観』収録]
- 村人放言(其一)『明星』2-5、10月1日[『社会雑記』収録]
- 霧島行[短歌20首]『明星』2-5、10月1日

1923(大正12)年

- 階級の本質『改造』5-1、1月1日[『階級及第三史観』収録]
- マルクスの階級概念『経済論叢』16-1、1月1日[『階級及第三史観』収録]
- クラークの資本観『国民経済雑誌』34-1、1月1日[『経済学研究』収録]
- 河上博士の剰余価値論『解放』5-2、2月1日[『経済学研究』収録]
- 報酬逡減の法則に就いて『商学研究』2-3、2月28日[『経済学研究』収録]
- 第三史観『思想』19、4月1日[『階級及第三史観』収録]
- 剰余価格に関して—再び教を河上博士に請ふ—『解放』5-7、7月1日[『経済学研究』収録]
- 独占について『表現』3-7、7月1日[『経済学研究』収録]
- [「研究室臨検事件に就ての感想」]『日本教育』2-8、8月1日
- 優越意識と流行心理『労働立国』2-8、8月1日
- 利子の厳密動学説『改造』5-9、9月1日[『経済学研究』収録]
- 生計費に就いて『文化生活』1-5、6、9月1日、10月1日[『人口と貧乏』収録]
- 家族の遠孫 村人放言(其二)『明星』4-3、9月1日[『社会雑記』収録]
- [「私共のページ 私信」]『文化生活』1-7、11月23日
- 利子の構成『商学研究』3-2、12月20日[『経済学研究』収録]

1924(大正 13)年

小詩二章『我観』3、1月1日

満鮮吟行『改造』6-2、2月1日

社会の本質に就いて『講座』13、2月1日[『社会関係の研究』収録]

階級の動学的考察『経済論叢』18-4、4月1日[『階級及第三史観』収録]

社会の本質に関して—銅直学士に答ふ『社会学雑誌』<日本社会学会>5、9月1日[『社会関係の研究』収録]

独占の本質—土方教授の独占説について—『経済論叢』19-4~6、10月1日、11月1日、12月1日[『価格と独占』収録]

剩餘価格第三論 河上博士の再論について『改造』6-12、12月1日[『価格と独占』収録]

1925(大正 14)年

盗人市場のこと(村人放言其三)『明星』6-1、1月1日

牀頭片景[短歌 32 首]『明星』6-1、1月1日

農村の人として 我農村の友よ相団結せよ『福岡日日新聞』1月1、6日

寒谿夜坐[短歌 32 首]『明星』6-3、3月1日

*浄財とは何ぞや『覚路』3月[『人口と貧乏』収録]

『軍隊社会の研究』について[「読書界出版界」]『読売新聞』4月5日

経済静態に就いて『経済研究』<岩波書店>2-2、4月15日[『価格と独占』収録]

結合の上位『社会科学』<改造社>1-1、6月1日[『社会関係の研究』収録]

畑の仕事『文芸春秋』3-6、6月1日[『社会雑記』収録]

家族の展望『福岡日日新聞』6月22~28、30日[『社会雑記』収録]

Gemeinschaft に就いて『社会科学』<改造社>1-3、8月1日

賭博と云ふこと(村人放言の四)『明星』7-2、8月1日[「賭博としての社会生活」と改題『人口と貧乏』収録]

霧降る日[短歌 40 首]『明星』7-2、8月1日

国家の永續性『改造』7-9、9月1日[『国家と階級』収録]

社会学の対象について『社会学研究』<日本社会学院>1-2、9月1日

定型としての共同社会『社会科学』<改造社>1-5、6、10月1日、11月1日[『社会関係の研究』収録]

嘯詠思慕[短歌 95 首]『明星』7-4、10月19日

「結合の上位」の批評に答ふ『社会学雑誌』<日本社会学会>18、10月1日

社会科学について『社会学雑誌』<日本社会学会>20、12月1日

1926(大正 15・昭和元)年

- 「世界平和の日」『婦人之友』20-1、1月1日
- 情死について—村人放言の五—『明星』8-1、1月1日
- 生活と賭博との界『福岡日日新聞』1月4日[『人口と貧乏』収録]
- 除貧の二途『大阪朝日新聞』1月15~17、19、21、22、24、25日[『人口と貧乏』収録]
- 和服の味『文芸春秋』4-3、3月1日
- 階級の自壊作用[特別付録]『改造』8-4、4月1日[『社会関係の研究』収録]
- 経済とは何ぞや『経済研究』<岩波書店>3-2、4月15日[『価格と独占』収録]
- Über die Gemeinschaft als Typus, *Journal of the Faculty of Law and Letters*, Kyushu Imperial University, No.1, April 15
- The Territorial Emancipation of Society, *Journal of the Faculty of Law and Letters*, Kyushu Imperial University, No.1, April 15
- 農村の商業教育『経済往来』1-4、6月1日[「農村の教育」と改題『社会雑記』収録]
- 社会的な基本関係について『社会政策時報』69、6月1日
- 産めよ殖えよ『経済往来』1-5、7月1日[『人口と貧乏』収録]
- 効用、価値及び価格『経済論叢』23-1、7月1日
- 村人放言—其六、再び賭博について—『明星』9-1、7月1日[「再び賭博について」と改題『人口と貧乏』収録]
- 花柑子[短歌 20 首]『明星』9-1、7月1日
- 生産の概念『経済論叢』23-2、8月1日
- 地下室『文芸春秋』4-8、8月1日[『社会雑記』収録]
- 都会討伐[「一日一文」]『大阪朝日新聞』8月26日[『一日一文 続』(朝日新聞社、1926年)、『社会雑記』収録]
- 社会科学の流行『随筆』1-4、9月1日
- 柔道と剣道『経済往来』1-8、10月1日
- 社会関係の平行について『社会学雑誌』<日本社会学会>30、10月1日
- 岩崎教授の「社会学の人と文献」を読む[「紹介批評」]『社会学雑誌』<日本社会学会>30、10月1日
- ウィゼの「社会学」[「紹介批評」]『社会学雑誌』<日本社会学会>30、10月1日
- 価格の一理論『経済論叢』23-5、11月1日
- 社会学論の一節『精神科学』1-2、11月10日
- 日本に於ける本年の社会学[「本年社会科学の業績と傾向」]『経済往来』1-10、12月1日

1927(昭和 2)年

- 新自由主義の意味『新政』4-1<新自由主義文献特輯号>、1月1日

社会読本を読む『経済往来』2-2、2月1日
 一九〇七年のころ『社会学徒』1-2、2月1日
 経済学論の一節『社会科学研究』<日本評論社>1-1、2月17日[『経済学新講第二巻』収録]
 共同社会の優越について[「雑録」]『社会科学研究』<日本評論社>1-1、2月17日
 [短歌4首、「春風だより」]『文化生活』5-4、4月1日
 風の言葉『明星』10-2、4月1日[『回想記』収録]
 分配論の性質『経済論叢』24-5、5月1日[『経済学新講第四巻』収録]
 限界効用説の吟味『社会科学研究』<日本評論社>1-2、5月25日
 帰属学説について『思想』69、7月1日[『価格と独占』収録]
 人口問題の反批判—河上博士の批判に答ふ—『改造』9-9、10、9月1日、10月1日[『人口と貧乏』、『マルクス貧困論考』収録]
 人口はどうなるか『経済往来』2-9、9月1日[『人口と貧乏』収録]
 消費問題と和服の改造『生活文化』5-10、10月1日
 地代の理論『社会科学研究』<日本評論社>1-3、10月25日
 利子の泉源について—利子の理論、其の—『経済論叢』25-5、11月1日[『経済学新講第四巻』収録]
 Die Gemeinschaft als Typus: *Zeitschrift für die gesamten Staatswissenschaften*, Bd. LXXXIII
 Der Weg zur Gesellschaft, *Jahrbuch für Soziologie; Eine Internationale Sammlung*, Bd. 3

1928(昭和3)年

食糧問題『福岡日日新聞』1月17~21、23日
 利潤成立の機構—利子の理論の二—『経済論叢』26-2、3、2月1日、3月1日[『経済学新講第四巻』収録]
 政治のすがた『大阪朝日新聞』2月3~5、7~12日[『社会雑記』収録]
 生産係数について『経済研究』<岩波書店>5-2、4月10日[『価格と独占』収録]
 経済動態理論について—その総説『社会科学研究』<日本評論社>2-1、4月15日[『景気変動論』第1部第1章に収録]
 ひとつの感想[「学界余談」]『東京朝日新聞』6月24~26日
 三日月村より—近詠九十五首[短歌]『九州大学新聞』12、6月26日
 理論経済学の不振『経済往来』3-7、7月1日
 経済静態について『経済論叢』27-1、2、7月1日、8月1日[『景気変動論』第1部第2章に収録]
 嫉妬の分析『文芸春秋』6-7、7月1日[大草実編『読書随筆』(矢の倉書店、1938年)収録]
 社会問題としての融和問題『融和事業研究』1-1、7月15日[『社会雑記』収録]
 [短歌「八月集」]『ひのくに』3-2、8月1日
 私の人口理論—那須博士の批評に答へて『経済往来』3-9、9月1日[『価格と独占』、『マルクス貧困論考』]

収録]

〔「芸妓問題と輿論」〕『廓清』18-10、10月10日

Über die Gemeinschaft als Typus, *Annals of the Faculty of Law and Letters*, Kyushu Imperial University, Vol.1

1929(昭和4)年

資本蓄積に関する第二論(生産手段と消費資料との関係につき河上博士に答ふ)『改造』11-1、1月1日[『価格と独占』収録]

農村のために『福岡日日新聞』1月1、3、4日[『社会雑記』収録]

小浜雑記『関門日日新聞』1月8日[『社会雑記』収録]

醒めよ日本『大阪朝日新聞』1月22、24、29～31日、2月5、7、11、12、17日[「醒め得ざる日本」と改題『社会雑記』収録]

価格の勢力説『経済論叢』28-5、5月1日[『経済学新講第二巻』収録]

入洛雑詠『京都帝国大学新聞』103、5月20日

合理化の行衛『経済往来』4-6、6月1日

労銀の理論『経済論叢』28-6、29-1、2、6月1日、7月1日、8月1日[『経済学新講第四巻』収録]

免償価値について[「雑録」]『経済論叢』28-6、6月1日

京都にて[短歌]『九州大学新聞』26、6月5日

農村のために『光』90、6月25日

ひのくに復活の一年に『ひのくに』4-7、7月1日

On the Coefficients of Production, *Kyoto University Economic Review*, Vol. IV, No.1, July

農村の疲弊について『島根県農会報』379、380、8月1日、9月1日[『社会雑記』収録]

*社会学『近江教育』408、409、10月1日、11月1日<彦根市立図書館所蔵>

平均生産力説について『経済論叢』29-5、6、10月1日、11月1日[『経済学新講第二巻』収録]

児を憶ふ『京都帝国大学新聞』112、10月21日

A Power Theory of Wages, *Kyoto University Economic Review*, Vol. IV, No.2, Dec.

Skizze einer Machttheorie des Preises, *Annalen der Juristisch-Literarischen Fakultät der Kyushu Kaiserlichen Universität*, Bd. 2, H. 1

1930(昭和5)年

貧乏の話『経済往来』5-1、1月1日[『改訂貧者必勝』収録、[特集「経済往来の昭和史」]『経済往来』41-6、1989年6月1日に転載]

マルクス価値論の価値論『経済論叢』30-1、1月1日[『労働価値説の吟味』、「マルクス価値論の分析」と改題『労働価値説の分析』収録]

権力と経済一河上氏の批評に答ふ『中央公論』45-1、1月1日[『国家と階級』収録]
 国際価格の理論『経済論叢』30-2、3、2月1日、3月1日[『経済学新講第二巻』収録]
 労働の異質性『祖国』3-2、2月1日[『労働価値説の吟味』収録]
 風の言葉[詩]『冬柏』1-1、3月23日[『回想記』収録]
 貨幣数量説について『経済論叢』30-4、5、4月1日、5月1日[『経済学新講第三巻』収録]
 椋の葉[詩]『冬柏』1-2、4月23日[『回想記』収録]
 星[詩]『冬柏』1-2、4月23日[『回想記』収録]
 粉の雪[詩]『冬柏』1-2、4月23日
 食糧問題の社会性『経済史研究』7、5月1日
 [短歌9首「五月集」]『ひのくに』5-5、5月1日
 客中思慕[短歌]『冬柏』1-3、5月18日
 独占をめぐる『経済往来』5-6、6月1日
 購買力平価説の一考察『経済論叢』30-6、31-1、6月1日、7月1日[『経済学新講第三巻』収録]
 価格理論の現状『京都帝国大学新聞』126、7月5日[『労働価値説の吟味』『緒論』に収録、「労働価値説の史的地位」と改題『労働価値説の分析』収録]
 労働価値説は支持し得らるゝや『改造』12-8、8月1日[『労働価値説の吟味』収録]
 貨幣の本質について『経済論叢』31-2、8月1日[『経済学新講第三巻』収録]
 わが村の記『冬柏』1-6、8月25日
 貨幣の中心機能『経済論叢』31-3、9月1日[『経済学新講第三巻』収録]
 第三史観の立場から一福本氏への反批判『思想』100、9月1日[『国家と階級』収録]
 資本蓄積理論の蓄積『中央公論』45-9、9月1日[『労働価値説の吟味』収録]
 勢力と経済一勢力説に対する批判―[「説苑」]『経済論叢』31-5、11月1日[『勢力説論集』収録]
 マルクス経済学の批判『思想調査資料』8、9、11月、1931年2月
 利子に於ける勢力の作用『経済論叢』31-6、12月1日
 労働価値説の擁護難『中央公論』45-12、12月1日[『マルクス経済学論評』収録]

1931(昭和6)年

階級による差別出生率『経済論叢』32-1、1月1日
 情死の新研究『中央公論』46-1、1月1日
 三日月村より『冬柏』2-1、1月25日
 三日月村より シュ教授の印象『福岡日日新聞』3月14、15日[「シユムペエタア教授の印象」と改題『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]
 三日月村より[短歌]『冬柏』2-4、3月25日

- 利子の形成について『経済論叢』32-3、4、3月1日、4月1日[『経済学新講第四巻』収録]
 労銀の勢力説『経済学研究』<九州帝国大学>1、3月31日[『経済学新講第四巻』収録]
 マルクスの地代論と価値論『改造』13-4、4月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 職業を中心とする見方『季刊社会学』1、4月30日
 経営経済学についての私見『経営と経済』1-5、5月1日
 農村の人として[『経済・政治・社会時評』]『経済往来』6-5、5月1日[『回想記』収録]
 マルクス地代論をめぐりて『改造』13-6、6月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 経済理論に於ける時間『経済論叢』32-6、6月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 景気はいつ頃立ち直るか『工場世界』12-12、6月15日
 マルクスを破壊する者『改造』13-7、7月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 景気変動の波長について『経営と経済』2-1、7月1日
 五月ある日の感想『経済往来』6-7、7月1日
 効用経済と勢力経済『経済論叢』33-1、7月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 新仮名遣法の実行について『冬柏』2-8、7月25日
 経済的変動の分析『経済論叢』33-2、8月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 景気を中心として[講演、文責在記者]『北海道帝国大学新聞』79、80、8月3日、9月7日
 長期波動について『経済論叢』33-3、9月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 マルクス地代論の解釈『経済論叢』33-4、10月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 [短歌7首「十月集」]『ひのくに』6-9、10月1日
 景気徴候論について『経済論叢』33-5、11月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 金本位制をめぐりて『京都帝国大学新聞』151、11月5日
 地代論争の決算『改造』13-12、12月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 景気波長の問題『経営と経済』2-6、12月1日
 景気変動と前進変動—資本主義社会の展望『経済論叢』33-6、12月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 On the Differential Birth-rate by Classes, *Kyoto University Economic Review*, Vol. VI, No.2, Dec.

1932(昭和7)年

- 景気に於ける勢力の作用『経済論叢』34-1、1月1日[『経済学新講第五巻』収録]
 小さなる展望 金再禁後の日本経済『福岡日日新聞』1月1、2、4日
 蓄積理論の一考察『経済論叢』34-2、2月1日[『マルクス経済学論評』収録]
 匆急の企[「仮名遣改定問題」]『国学院雑誌』38-2、2月1日
 前進変動の理論『経済学研究』<九州帝国大学>2-1、3月31日

貨幣の価値の受動性『経済論叢』34-5、5月1日[『利子論研究』収録]

文化の発展は果して幸福か『家事及裁縫』6-6、6月1日

日本経済の前途『経済往來』7-6、6月1日

利子に関する試論『経済論叢』34-6、6月1日[『利子論研究』収録]

Macht und Wirtschaft, *Kyoto University Economic Review*, Vol. VII, No.1, July

経済に於ける勢力—中山教授の批評に答ふ—『経済論叢』35-2、8月1日[『利子論研究』収録]

私の作歌態度『ひのくに』7-7、8月10日

時差説覚書『経済論叢』35-3、9月1日[『利子論研究』収録]

利子歩合の理論—北欧学派の利子論の中核に関する覚書—『経済論叢』35-4、10月1日[『利子論研究』収録]

選挙法改正の眼目『大阪朝日新聞』10月15~17日【(上)思想と政治、(中)選挙運動の禁止、(下)日本的の改造】

貨幣の価値に就いて—柴田助教授に答ふ—[『説苑』]『経済論叢』35-5、11月1日[『利子論研究』収録]

思想と政治 選挙法改正の眼目『日米[the Japanese American News]』11月25~28日

増税と資本蓄積『経済往來』7-13、12月1日[『貧者必勝』収録]

制欲説の吟味—蓄積に関する新見解—『経済論叢』35-6、12月1日[『利子論研究』収録]

Cyclical Variations and Progressive Changes, *Kyoto University Economic Review*, Vol. VII, No.2, Dec.

1933(昭和8)年

人口に関する小論—向坂逸郎氏の批評に答ふ—『経済論叢』36-1、1月1日[『マルクス経済学論評』『マルクス貧困論考』収録]

日本の歩み 民族と階級との調和『福岡日日新聞』1月1、3、4~6日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]

経済時局座談会『福岡日日新聞』1月1、3~5、7~15、17~22、24、25、27~29、31日、2月1、2日[12月15日座談会(於本社楼上): 君島一郎、大森研造、竹内謙二、三田村一郎、沢村康、木村修三、小出満二、渡辺儀介、栃内礼次、安川清三郎、木村平右衛門、今村藤市、石橋正二郎、西雄一、井口茂寿郎、尾深虎雄、本社側編集長・経済部長・経済記者]

我国国民の生活に就て『兵庫教育』519、520、1月15日、2月15日

国民生活に就て『蚕糸学報』15-1、1月25日[『民族の問題』収録]

蓄積理論の修正—説いて久留間氏の批評に及ぶ—『経済論叢』36-2、2月1日[『マルクス経済学論評』収録]

民族と階級との調和が日本の歩む道『工場世界』14-3、2月10日

経済に関する二三の考察[1932年11月6日講演於初等教育協議会]『学校教育』239、2月20日

一の感想『九州大学新聞』84、2月20日

田中村以後『冬柏』4-3、2月25日[『回想記』収録]

純生産力について『経済論叢』36-3、3月1日[『経済と勢力』収録]

- マルクスに於ける平均利潤率－柴田助教授の平均利潤率論に論及す－『経済論叢』36-4、4月1日[『マルクス経済学論評』収録]
- 雑詠十首[短歌]『経済往来』8-5、5月1日
- 生産力の自己運動－唯物史観の一批評－『経済論叢』36-5、5月1日[『国家と階級』収録]
- 我国経済界の前途はどうなる『東邦時論』10-5、5月1日
- [短歌7首「ひのくにのうた その一」]『ひのくに』8-5、5月15日
- 奈良にて『京都帝国大学新聞』182、5月21日
- 唯物史観の第三史観への接近『経済論叢』36-6、6月1日[『国家と階級』収録]
- 仲春雑詠[短歌10首]『短歌研究』2-6、6月1日
- 資本形成の自働性について－制欲説の一側面－『経済論叢』37-1、7月1日[『利子論研究』収録]
- 資本蓄積論について『社会政策時報』154、7月1日
- 蓄積過剰の必然性『改造』15-8、8月1日[『マルクス経済学論評』収録]
- 利子の資本蓄積に及ぼす作用『経済論叢』37-2、8月1日[『利子論研究』収録]
- [短歌8首「ひのくにのうた その一」]『ひのくに』8-7、8月1日
- 労働の供給について『経済論叢』37-3、9月1日[『利子論研究』収録]
- 貨幣効用の測定について『経済論叢』37-4、10月1日[『利子論研究』収録]
- 京都より『冬柏』4-11、10月28日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]
- 国民皆貧論『経済往来』8-12、11月1日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]
- 労銀と利子－ウイクセル、リンドベアクの所説を中心として－『経済論叢』37-5、11月1日
- 中村梧竹翁のこと『文芸春秋』11-11、11月1日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]
- Saving as the Costless Process, *Kyoto University Economic Review*, Vol. VIII, No.2, Dec.

1934(昭和9)年

- 経済社会学の素描『経済史研究』11-1、1月1日[『国家と階級』収録]
- 植民の世界史的意義－貧しき者は必ず勝つといふこと－『経済論叢』38-1、1月1日[「貧者必勝の理－植民の世界史的意義」と改題]『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]
- 日本の政治を論ず 議会政治の本質に関する検討『福岡日日新聞』1月1、3日
- 村居雑詠[短歌]『九州大学新聞』101、1月5日
- 初春村居／滯洛雑詠／歳晩東上[短歌12首]『短歌研究』3-2、2月1日
- 日本の政治について『関西大学学報』116、2月15日[『貧者必勝』収録]
- 初春村居／滯洛雑詠／歳晩東上[短歌12首]『ひのくに』9-2、3月1日[『短歌研究』3-2、2月1日から転載]
- 勢力なくして利子なしと云ふ理論『経済学研究』<九州帝国大学>4-1、3月30日

ベエムの利子生産力説『経済論叢』38-4、4月1日[『利子論研究』収録]

節約の矛盾について－ハイエクの節約賛美論に対する疑問－『経済論叢』38-5、5月1日[『利子論研究』収録]

ハイエクの景気理論－新しき貨幣的景気理論を批評して自己の立場を明らかにす『経済学論集』4-5、5月15日[『利子論研究』収録]

思想流転の記『改造』16-7、6月1日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]

国民生活に於ける米の地位『経済往来』9-6、6月1日[『米穀問題参考資料』(大日本米穀会、1934年)、『貧者必勝』収録]

新労銀基金説について－ストリグルの試みに対する批評－『経済論叢』38-6、6月1日[『利子論研究』収録]

土田杏村の経済観『セルバン』40、6月1日[『近代作家追悼文集成 23 小林多喜二 直木三十五 土田杏村』(ゆまに書房、1992年)収録]

長崎行[短歌 9首「ひのくにのうた その一」]『ひのくに』9-5、6月1日

貧乏論『京都帝国大学新聞』204、6月21日

高原半島『冬柏』5-7、6月28日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]

生産力の問題『経済論叢』39-1、7月1日[『国家と階級』収録]

道徳としての貧乏『中央公論』49-7、7月1日[『貧者必勝』『改訂貧者必勝』収録]

郷村に帰つて[「人と想と」]『大阪朝日新聞[夕刊]』7月13日[『回想記』収録]

A Critical Analysis of Böhm-Bawerk's Theory of Capital, *Kyoto University Economic Review*, Vol. IX, No.1, July

貿易障碍の問題[「一頁時評」]『経済往来』9-8、8月1日[「低生活の問題」と改題『民族の問題』収録]

供給曲線の性質『経済論叢』39-2、8月1日[『経済と勢力』収録]

貧者必勝[巻頭言]『受験界』15-8、8月1日

歌論の洪水『日本歌人』1-3、8月1日

生活標準と人口問題『講演』<聯合通信>84、8月25日

貨幣の将来効用について『経済論叢』39-3、9月1日[『経済と勢力』収録]

無理由の原則『文芸春秋』12-9、9月1日[『回想記』収録]

大旱のうた／小浜温泉／大丸食堂にて／湯槽にて『冬柏』5-10、9月28日

弁論覚書『経済往来』9-10、10月1日

不全競争について『経済論叢』39-4、10月1日[『経済と勢力』収録]

円谷博士の「集団社会学原理」を読む『社会学徒』8-10、10月1日

経済理論に於ける勢力の地位『経済論叢』39-5、11月1日[『経済と勢力』収録]

マルサスと近代的景気論『経済往来』9-11、11月1日[『経済と勢力』収録]

私の推奨する勉強の仕方－社会学に就いてのことども－『受験界』15-11、11月1日

都市問題に関する社会学的一考察『都市問題』19-5、11月1日
 貧乏について天野教授に答ふ『京都帝国大学新聞』210、211、11月5、21日[『改訂貧者必勝』収録]
 景気理論に於ける争点『一橋新聞』198、11月12日
 世界主義と民族主義一ひとつの感想一『経済往来』9-12、12月1日[『民族の問題』収録]
 社会的勢力の分析『経済論叢』39-6、12月1日[『経済と勢力』収録]

1935(昭和10)年

三日月村より『経済往来』10-1、1月1日[『民族の問題』収録]
 勢力関係の性質『経済論叢』40-1、1月1日[『経済と勢力』収録]
 経済的不況の派生物[「危機の正体」]『中央公論』50-1、1月1日[「民族と経済的不況一危機とはこれのみ一」
 と改題『民族の問題』収録]
 世界は何処へ行く 独裁政治国際対立を正常視する謬論『福岡日日新聞』1月1、3、4日[「民族主義と独裁
 政治一世界は何処へ行く一」]と改題『民族の問題』収録]
 村の追憶『大阪朝日新聞』1月25、26日[『回想記』収録]
 増税は景気の芽を摘むか[「時論」]『経済論叢』40-2、2月1日
 赤字公債累積対策 増税の可否 国家経済指導性を欠く[「時事経済評論」]『朝鮮公論』23-2、2月1日
 貧乏とは何ぞや 再び天野教授に答ふ『京都帝国大学新聞』216、217、2月5、21日[『改訂貧者必勝』収録]
 マルサスの二つの理論[法政大学経済学会特別講義速記録]『経苑』8・9、2月8日
 今日の農村問題(京都より)[「ラヂオ」]『東京朝日新聞』3月15日
 景気に就いて[1934年11月13日講演(於京都経済会)]『大阪銀行通信録』451、3月25日
 民族主義の進行『経済往来』10-4、4月1日
 利子論序説『経済論叢』40-4、4月1日[『利子論』収録]
 利子の社会的説明『経済論叢』40-5、5月1日[『利子論』収録]
 葉隠の真髓一栗原荒野氏の力作一[「ブック・レビュー」]『大阪朝日新聞』5月6日
 人口政策の欠乏『エコノミスト』13-16、6月1日[『民族と経済』収録]
 民族と社会の発達『経済論叢』40-6、6月1日[「民族と世界一民族の周流に関する法則一」1~4(『民族の
 問題』)に収録]
 金価値の将来『エコノミスト』13-19、7月1日
 民族の周流『経済論叢』41-1、7月1日[「民族と世界一民族の周流に関する法則一」5~8(『民族の問題』)
 に収録]
 民族と国家『中央公論』50-7、7月1日[「世界国家への道一理性の一設計一」]と改題『民族の問題』収録]
 農村観の二途『農業と経済』2-7、7月1日[『民族と経済』収録]
 Introductory Discourse on the Theory of Interest, *Kyoto University Economic Review*, Vol. X, No.1,
 July

軍備と経済『エコノミスト』13-22、8月1日[『民族の問題』収録]

生産の構造『経済論叢』41-2、8月1日[『利子論』収録]

〔「選挙粛正と公民教育に関する各方面の意見」〕『公民教育』5-8、8月1日

海の家[短歌5首「学芸」]『大阪朝日新聞』8月7日

『極東経済』誕生の必然性『エコノミスト』13-25、9月1日

エチオピア、イタリア、民族主義『経済往来』10-9、9月1日[「民族主義の限界—エチオピア、イタリア—」と改題『民族の問題』収録]

利子の限界生産力説『経済論叢』41-3、9月1日[『利子論』収録]

限界生産力説の二形態『経済論叢』41-4、10月1日[「限界生産力説の内容」と改題『利子論』収録]

経済学の根本問題『理想』58、10月1日[『経済と勢力』収録]

全体社会そのほか『関西学院新聞』116、10月17日[『回想記』収録]

利子生産力説について『経済論叢』41-5、11月1日[「利子生産力説の吟味」と改題『利子論』収録]

消費利子の問題『経済論叢』41-6、12月1日[『利子論』収録]

労働価値説の評価『思想国防』1-3、12月1日[『経済と勢力』収録]

An Analysis of Social Power, *Kyoto University Economic Review*, Vol. X, No.2, Dec.

Die Rolle des Machtfaktors in der Zinstheorie, *Zeitschrift für Nationalökonomie*, Bd. 6, Ht. 5, Dez.

1936(昭和11)年

費用としての勢力『経済論叢』42-1、1月1日[「費用としての勢力」『利子論』収録]

日本精神の一面—忘れられむとする一面と階級の問題—『福岡日日新聞』1月1、3、4、5日[「日本精神の一面—貧者必勝の補註—」と改題『民族と経済』収録]

東亜に於ける日本の地位[「時論」]『国際経済週報』17-1、1月2日

日本の地位[「経済時論」]『満州日日新聞[夕刊]』1月8日

純限界生産力説『経済論叢』42-2、2月1日[『利子論』収録]

新年のうたについて『ひのくに』11-2、2月1日

社会連帯責任と報徳精神[「展望塔」]『家事及裁縫』10-3、3月1日[『奈良教育』から抄録]

労銀理論の破綻『経済論叢』42-3、3月1日[「費用としての勢力」(『利子論』)に収録]

ナイトの利子理論『経済論叢』42-4、4月1日[「新しき資本概念とこれに伴ふ利子理論」(『利子論』)に収録]

追憶記『冬柏』7-5、4月28日[『回想記』収録]

ナイト利子論の吟味『経済論叢』42-5、5月1日[「新しき資本概念とこれに伴ふ利子理論」(『利子論』)に収録]

民族の運命、初出未詳、5月[『民族耐乏』収録]

フィシャア利子論の分析—特に其時差説について—『経済論叢』42-6、6月1日

- テニス教授逝く『京都帝国大学新聞』247、6月20日[『回想記』収録]
- フィシャア利子説の難点ー其利子生産力説について『経済論叢』43-1、7月1日[「新しき資本概念とこれに伴ふ利子理論」(『利子論』)に収録]
- 鶺鴒『文芸春秋』14-7、7月1日
- 北の海峡『緑丘新聞』94、7月5日[『回想記』収録]
- The Bankruptcy of Wage Theories; Prolegomena to a Power Theory of Economy, *Kyoto University Economic Review*, Vol. XI, No.1, July
- 日本の経済と人口問題ー第十七回学習講演会特別講演ー『学習研究』15-8、8月1日
- 揺籃の歌 ちよせんどり『大阪朝日新聞』8月21日
- 本を失ふ記『書物展望』6-9、9月1日[「逸本記」と改題『思郷記』収録]
- 西川大人のこと『美以都』3-9、9月1日[「西川須賀雄氏のこと」と改題『回想記』収録]
- 長崎まで『旅』13-10、10月1日[『回想記』収録]
- [短歌5首「十月集」]『ひのくに』11-5、10月1日
- 利子歩合の決定『経済論叢』43-5、11月1日[『利子論』収録]
- 日本的学問とは何ぞや『九州帝国大学新聞』156、11月6日[『回想記』収録]
- 小泉信三博士著『学窓雑記』[書評]『東京朝日新聞』11月23日
- 生産期間について『経済論叢』43-6、12月1日[『利子論』収録]
- わが国の米作と農家[文責在記者]『富民』8-12、12月5日

1937(昭和12)年

- 固定資本論の一節『経済論叢』44-1、1月1日[「固定資本論」(『利子論』)に収録]
- 軍備拡張の限度『福岡日日新聞』1月1、3、4日[「軍備拡張の程度」と改題『民族と経済』収録]
- [「年頭感」]『洛味』3-1、1月5日
- シャツの高価[「新春随筆」]『大阪朝日新聞』1月6日[「貧強ーシャツの価格」と改題『回想記』収録]
- 固定資本の性質『経済論叢』44-2、2月1日[「固定資本論」(『利子論』)に収録]
- 経済と勢力『日本評論』12-2、2月1日[『勢力説論集』収録]
- 演説雑記『文芸春秋』15-2、2月1日
- 日本の強み『九州帝国大学新聞』161、2月20日[『回想記』収録]
- 軍備と生産力『財政』2-5、4月1日[『民族と経済』収録]
- 農業政策の前提『農業と経済』4-4、4月1日[『民族と経済』収録]
- 自然利子論『経済論叢』44-5、5月1日[「現実利子論」(『利子論』)に収録]
- 総選挙と農民の覚悟[談]『富民』9-5、5月5日
- 現実利子の問題『経済論叢』44-6、6月1日[「現実利子論」(『利子論』)に収録]

下宿の追憶『洛味』3-4、6月5日[『回想記』収録]

人口政策に就いて『経済論叢』45-1、7月1日[『民族と経済』収録]

大戦後に於ける人口と経済『社会時報』〈広島県社会事業協会〉17-7、7月1日

選挙法の改正『日本評論』12-7、7月1日

生活標準と人口問題[人口問題研究会講演要旨]『糧友』12-7、7月1日

虹の松原『冬柏』8-7、7月28日[『改訂貧者必勝』収録]

Determination of the Rate of Interest, *Kyoto University Economic Review*, Vol. XII, No.1, July

Kulturelle und Geistige Voraussetzungen für Japans Aufstieg, *Weltwirtschaftliches Archiv*, Bd.VI, No.1, July

三朝温泉[短歌8首]『短歌研究』6-8、8月1日

三日月村の家『ひのくに』12-3、8月1日[『回想記』収録]

ケインズの利子理論 特にその multiplier について『経済論叢』45-3、9月1日[『新利子論研究』収録]

貨幣本質に関する若干の問題『経済論叢』45-4、10月1日[『新利子論研究』収録]

恵利武さんのこと『龍南』238、10月30日[『回想記』収録]

失業と労銀—ケインズ失業論の批評—『経済論叢』45-5、11月1日[『新利子論研究』収録]

追憶の上海『財政』2-12、11月1日[『回想記』収録]

資本主義の純粹理論『経済論叢』45-6、12月1日[『東亜民族論』収録]

十和田湖にて[短歌3首「ひのくに十二月集」]『ひのくに』12-12、12月1日

Unemployment and Wages: A Critical Review of Mr. Keynes' Theory of Unemployment, *Kyoto University Economic Review*, Vol. XII, No.2, Dec.

1938(昭和13)年

資本主義と戦争—レニン帝国主義論の基礎的批判—『経済論叢』46-1、1月1日[『東亜民族論』収録]

日本の立場 東亜民族主義といふこと『福岡日日新聞』1月1、3、4日[「東亜民族主義に就いて」と改題『東亜民族論』収録]

潮流化の日本経済学[「経済学時評」]『京都帝国大学新聞』274、1月20日

新京雑記『経済往来』13-3、2月1日[『回想記』収録]

租税と生活安定『財政』3-2、2月1日[『民族と経済』収録]

事変と銃後施設に就て—特に戦死者に対する一時賜金増額問題『富民』10-2、2月5日

貨幣の本質について—中山教授に答ふ—『経済論叢』46-4、4月1日[『新利子論研究』収録]

[「各学部長から新入生に与ふる言葉」]『京都帝国大学新聞』277、4月20日

指導者的精神の確立[「高等教育の再検討」]『京都帝国大学新聞』277、4月20日[『回想記』収録]

貨幣と利子『経済論叢』46-5、5月1日[『新利子論研究』収録]

- 物価騰貴と国民生活『エコノミスト』16-15、5月21日
- 消費節約の問題[「時論」]『経済論叢』46-6、6月1日[『民族と経済』収録]
- 民族興亡の原則『ラヂオ講演講座』39、6月15日[「民族の興亡」と改題『思郷記』収録]
- 貧者日本の為に『改造』20-7、7月1日[「日本民族の自衛」と改題『東亜民族論』収録]
- 東亜民族主義論『日本評論』13-8、7月1日[『東亜民族論』収録]
- 婦人にまつものは何ぞ『文部時報』624、7月1日[『回想記』収録]
- *凋落する白人の世界制覇『外地評論』1-8、8月1日
- 貨幣は被覆なりや『経済論叢』47-2、8月1日[『新利子論研究』収録]
- 増税のも一つの意義『財政』3-8、8月1日[『民族と経済』収録]
- 民族興亡原則から見た日本民族『朝鮮及満州』369、8月1日
- 小豆島行[短歌「八月集」]『ひのくに』13-2、8月1日
- 火群の思ひ出『文芸春秋』16-13、8月1日[『回想記』収録]
- 利子論の新旧『経済論叢』47-3、9月1日[『新利子論研究』収録]
- 民族興亡原則から見た日本民族『公民講座』166、9月1日
- 近詠五首—小豆島にゆく—[「和歌」]『懐徳』16、10月
- 勢力説に於ける存在拘束性『経済論叢』47-5、11月1日[第5、6節を追加して『勢力説論集』収録]
- 物価騰貴と国民生活[講演要旨於エコノミスト誌主催講演会]『自由通商』11-11、11月1日
- 転業の問題[「転業問題特輯」]『商工行政』1-1、11月1日
- 日本経済を貫く自己犠牲と簡素 民族性の経済的対立関係[講演「日本民族と経済」大要(於11月2日一橋会大講演会)]『一橋新聞』277、11月10日
- 投資節約の均等について『経済論叢』47-6、12月1日[『新利子論研究』収録]
- 最近の世態と人口問題『経済倶楽部講演』192、12月9日
- 田中村のころ『洛味』4-4、12月10日[宮崎小次郎編『京に田舎あり』(晃文社、1942年5月5日)、『思郷記』収録]
- 日本に於ける資本主義の発達[1938年1月27日講演要旨]『商経学会報』<関西学院大学>3、12月25日

1939(昭和14)年

- ケインズの貨幣的利子論『エコノミスト』17-1、1月1日[「ケインズの利子論」と改題『洛北雑記』収録]
- 東亜民族の使命『経済論叢』48-1、1月1日[「東亜民族の形成」と改題『東亜民族論』収録]
- 戦時の消費節約について—その社会的意義—『商工経済』7-1、1月1日[『民族と経済』収録]
- 農業対策の根本問題『農業と機械』187、1月1日
- 東亜民族の使命『福岡日日新聞』1月1日[『東亜民族論』収録]
- 資本主義経済と日本農村 農業は企業にあらず[「主張」]『愛土』316、2月1日

貨幣的利子論の吟味『経済論叢』48-2、2月1日[『新利子論研究』収録]

貧の強さ『財政』4-2、2月1日[「支那民族の話一貧の強さ」と改題『東亜民族論』収録]

東亜主義と東亜文化『日本評論』14-2、2月1日[『東亜民族論』収録]

最近の国際情勢と人口問題『ラヂオ講演講座』63、2月15日

法幣の問題『九州帝国大学新聞』195、2月24日

オープンハイマア氏思想『科学知識』19-3、3月1日[『思郷記』収録]

政府支出と所得増加—ケインズの乗数理論について—『経済論叢』48-3、3月1日[「ケインズの乗数理論」と改題『新利子論研究』収録]

東亜民族の問題『公民講座』172、3月1日

支那の民族問題『文芸春秋』17-5、3月1日[『東亜民族論』収録]

*国力膨張と人口対策『外地評論』2-4、4月1日

日本民族の目標『学校教育』319、4月1日[広島高等師範学校附属小学校学校教育研究会編『興亜日本の教育』(宝文館、1939年)、『民族と経済』収録]

絶対価格の問題『経済論叢』48-4、4月1日[『新利子論研究』収録]

探春記[「学芸」]『神戸商大新聞』104、4月25日[『思郷記』収録]

貨幣の非中立性『経済論叢』48-5、5月1日[『新利子論研究』収録]

*戦時下に於ける国民生活の再検討『台湾警察時報』282、283、5月10日、6月10日

オ教授会见記『日本評論』14-6、6月1日[『思郷記』収録]

貨幣の中立性について『経済論叢』48-6、6月1日[『新利子論研究』収録]

物価対策について『財政』4-6、6月1日[『民族と経済』収録]

[「国民に与ふ」]『文芸春秋』17-12[「時局増刊 21」]、6月10日

新幣制[「学界余滴」]『東京朝日新聞』6月13日

完全予見の問題『経済論叢』49-1、7月1日[『新利子論研究』収録]

節約の平時的意義[「公民教育の今昔」]『公民教育』9-7、7月1日

『経済学経済史の諸問題』—坂西由蔵博士還暦祝賀論集[「紹介及批評」]『国民経済雑誌』67-1、7月1日

東洋服[「興亜特急」]『大阪朝日新聞[夕刊]』7月21日[『思郷記』収録]

*日本は帝国主義に非ず 事変の真髓を突く[講演]『小樽高商緑丘新聞』125、7月25日

*高田博士を囲んで座談会『小樽高商緑丘新聞』125、7月25日

利子動態説について—二の批判に答ふ—『経済論叢』49-2、8月1日[『新利子論研究』収録]

農村疲弊と誇示本能『農政研究』18-8、8月1日

最近の感想[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』8月30日

新利子論序説『経済論叢』49-3、9月1日[『新利子論』収録]

東亜の解放『日本評論』14-9、9月1日[『民族と経済』収録]

- 国民生活の問題－民族の観点から－(社会時評)『文芸春秋』17-17、9月1日[『思郷記』収録]
- 科学政策の確立[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』9月12日
- 利率決定者としての銀行『経済論叢』49-4、10月1日
- 誠友団と吉田海相[「新閣僚を語る」]『政界往来』10-10、10月1日[「誠友団回顧追録」と改題『改訂貧者必勝』収録]
- 旱害と英仏の宣戦(社会時評)『文芸春秋』17-19、10月1日
- 民族と国家『理想』101、10月1日
- 民族と人口 与へられたる二方向『帝国大学新聞』780、10月2日[『改訂貧者必勝』収録]
- 我が国の人口問題に就て[講演筆記、文責在記者]『母と子』20-10、10月3日
- 日本文化と世界文化『ラヂオ講演講座』86、10月5日
- 読書雑記『東京堂月報』26-10、10月15日
- 十月三日の夜『冬柏』10-10、10月28日
- 東亜と民族原理『改造』21-12、11月1日[『民族と経済』収録]
- 勢力抽象の労銀論『経済論叢』49-5、11月1日[末尾の一節を追加し「勢力抽象の経済理論」と改題『勢力説論集』収録]
- 試験を度外視した忠実なる勉強を望む[「試験委員より受験者諸氏へ」]『受験界』20-11、11月1日
- 忘れられた理論(社会時評)『文芸春秋』17-21、11月1日[『思郷記』収録]
- 日本文化の世界的地位『市町村雑誌』551、11月15日
- 物価政策の帰結『経済情報 政経篇』15-1、12月1日[『民族と経済』収録]
- 波動の内在性－リンドベリイの所説の吟味－『経済論叢』49-6、12月1日[『新利子論研究』収録]
- 長崎行『短歌研究』8-12、12月1日[『思郷記』収録]
- *物価騰貴の問題、初出未詳、[『民族と経済』収録]

1940(昭和15)年

- 事変処理方針『福岡日日新聞』1月1、2、4日[「国力の涵養」と改題『民族と経済』収録]
- 流動内在性の分析『経済論叢』50-1、1月1日[『新利子論研究』収録]
- [「一、現下の『海外』へ何を放送すべきか 二、現下の『満支』へ何を放送すべきか」葉書回答]『放送』10-1、1月15日
- 帰郷[短歌6首]『文芸世紀』2-2、1月16日
- 民族と文化『社会学』<日本社会学会年報>7、1月30日[『民族論』収録]
- 追悼録[関栄吉追悼録]『社会学』<日本社会学会年報>7、1月30日
- 勢力としての価格『経済論叢』50-2、2月1日[『勢力説論集』収録]
- 民族興隆と人口問題『朝鮮公論』28-2、2月1日

日本経済の現実分析『改造』22-4、3月1日[『民族と経済 第二集』収録]

勢力加速度の法則『経済論叢』50-3、3月1日[『勢力論』収録]

乗数の問題—物価政策との関連に於て—『経済論叢』50-4、4月1日

限界生産力説と勢力の問題『経済論叢』50-5、5月1日[『勢力説論集』収録]

大戦周期説[「学界余滴」]『東京朝日新聞』5月3日

わが書齋の記[「社会随想」]『エコノミスト』18-20、6月10日[『思郷記』収録]

民族主義と帝国主義『経済論叢』51-1、7月1日[『民族論』収録]

皇道座談会(第三十二回)『固本盛国』4-8、8月1日[7月5日座談会(於学士会館):大島正徳、松井茂、日影薫、夏秋亀一、古賀残星、田中鉄三郎、渡辺鍊蔵、尾佐竹猛、大宅由歌、中野邦一]

生活倫理の確立『文芸春秋』18-11、8月1日[池島信重編『時代の条件』(名取書店、1940年9月17日)、「経済倫理化の限界」と改題『民族と経済 第二集』収録]

経済に於ける統制と体制[「時論」]『経済論叢』51-3、9月1日[『民族と経済 第二集』収録]

山上雑感『神戸商大新聞』119、9月25日[『思郷記』収録]

広民族主義に就いて—資本主義と民族主義との関係を中心として—『経済論叢』51-4、10月1日[「民族主義と資本主義」と改題『民族論』収録]

新体制の経済論理『エコノミスト』18-37、10月7日

新経済倫理の確立[「時局講座」]『大阪毎日新聞』10月29、30日

最低生活論『東京日日新聞』10月31日、11月1、2日[「最低の生活」と改題『思郷記』収録]

Money, the Economic Veil, *Kyoto University Economic Review*, Vol. XII, No.4, Oct.

戦争の本質『経済論叢』51-5、11月1日

国民生活の計画化[「特輯 国民生活の計画化」]『経済情報 政経篇』15-11、10月10日[『民族と経済 第二集』収録]

最低生活論『農政研究』19-11、11月1日

新体制の社会的必然性—新体制出現の理由と経済新体制の行く道—『講演時報』603、11月25日

経済の統制について『経済論叢』51-6、12月1日

1941(昭和16)年

憶父／病床歳晩[短歌9首]『短歌研究』10-2、2月1日

下町の灯『冬柏』12-3、2月28日

塔の段展望『経済往来』16-3、3月1日[『思郷記』収録]

皇道座談会(第三十九回)『固本盛国』5-3、3月1日[2月13日座談会(於学士会館):真崎甚三郎、尾崎敬義、下村虎六郎、松尾長造、鶴見祐輔、渋谷作助、夏秋亀一、松尾常治、古賀残星、三宅維信、日影薫、加藤於菟丸、尾佐竹猛、内田寛一、諸岡存、芦田均、山本勝市、坂井隆治、山崎佐六、中野邦一]

人口政策の発足[「社会随想近頃会心のこと」]『現地報告』42、3月15日

- 「下町の灯」－岩野喜久代女史の歌集－『読売新聞』3月26日
- 伝統[短歌7首]『文芸世紀』3-4、4月1日
- 経済学論の一節『経済論叢』52-5、5月1日[『経済学論』収録]
- 雲仙長崎の記『改造』23-11、6月1日[「つつじの花(雲仙長崎の記)」と改題『思郷記』収録]
- 長期国策を確立せよ『現地報告』45、6月1日[「長期国策について」と改題『民族と経済 第二集』収録]
- 日本民族の行手『ダイヤモンド』29-19、7月1日
- 勢力経済学序説『経済論叢』53-2、8月1日[『経済学論』収録]
- 「社会学原理」の前後『社会学』<日本社会学会年報>8、8月2日[「『社会学原理』の前後」と改題『洛北雑記』収録]
- 思想と人間性『日本読書新聞』163、8月15日[『思郷記』収録]
- 五高の頃[「随筆」]『週刊朝日』40-10、8月24日[『思郷記』収録]
- 新秋談義『改造』23-18、9月2日[『思郷記』収録]
- 物価問題に就いて[講演要旨]『関西大学学報』192、9月15日
- 読書について『大阪朝日新聞』9月24日[『洛北雑記』収録]
- 日本的といふこと[巻頭言]『実業之日本』44-19、10月1日
- 価格論－勢力説の立場から－『国家学会雑誌』55-11、11月1日[「価格に於ける勢力」と改題『経済の勢力論』収録]
- 「日本経済の対米決意」座談会『文芸春秋』19-11、11月1日[座談会：河田嗣郎、中野登美雄、本位田祥男、山崎清純]
- 生産期間の問題『日本経済学会年報』1、11月25日[『最近利子論研究』収録]
- 価格理論と社会的勢力[1934年12月21日、日本経済学会第1回大会研究報告要旨]『日本経済学会年報』1、11月25日
- 経済と勢力[1936年12月22日、日本経済学会第3回大会研究報告要旨]『日本経済学会年報』1、11月25日
- 勢力説[1938年12月24日、日本経済学会第5回大会研究報告要旨]『日本経済学会年報』1、11月25日
- 創立を顧みて『日本経済学会年報』1、11月25日
- 生産の理論の一節『経済論叢』53-6、12月1日[「生産に於ける勢力」と改題『経済の勢力理論』収録]
- 忠実なる勉強を望む[「試験委員より受験者諸氏へ」]『受験界』22-12、12月1日
- 「国家の問題」『京都帝国大学新聞』341、12月20日[京都帝国大学新聞部編『決戦下学生に与ふ』(教育図書、1942年)収録]

1942(昭和17)年

- 広民族論『福岡日日新聞』1月1～3日[『民族と経済 第二集』収録]
- 御題「連峯雲」を拝して『富民』14-1、1月5日

- *東亜の回復、初出未詳、1月10日稿[『民族耐乏』収録]
 農業と人口『農業と経済』9-1、1月13日[『民族と経済 第二集』収録]
 東亜の回復[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月16日
 民族の故郷『公民講座』207、2月1日
 東亜民族の問題『日本評論』17-2、3、2月1日、3月1日[『民族と経済第二集』収録]
- *民族移動の問題、初出未詳、2月2日稿[『民族耐乏』収録]
 戦時と平時『京都帝国大学新聞』343、2月5日[京都帝国大学新聞部編『決戦下学生に与ふ』(教育図書、1942年)収録]
 [「珠玉篇 戦時下の国民生活 はがき回答文集」]『洛味』29、3月5日
- *国家の問題『西日本』[13-4]、3月6日稿
 経済学展望『日本諸学』1、3月30日[「経済学の展望」と改題『経済学論』収録]
 利子勢力説『経済論叢』54-4、4月1日
 高田保馬博士に訊く 我等はどう生活するか—戦争と文化—『実業之日本』45-9、10、5月1、15日
 感心な長崎の旅館[「感心した旅館のサービス」]『旅』19-5、5月1日
 条件統制と需給統制『経済論叢』54-6、6月1日[『統制経済論』収録]
 師と友に負ふもの『婦人公論』27-6、6月1日[「師友の追想」と改題『洛北雑記』収録]
 富士見町の邸『冬柏』13-7、6月27日[『近代作家追悼文集 29 萩原朔太郎 与謝野晶子 徳田秋声』(ゆまに書房、1992年)収録]
- *民族の老衰、初出未詳、6月20日[『民族耐乏』収録]
 統制に於ける需給均衡『経済学論集』12-7、7月1日[『統制経済論』収録]
 国土計画について[1941年12月16日国土計画研究会講演(於京都帝国大学楽友会館)]『国土計画』1-1、7月1日
 わが青年のころ『知性』5-7、7月1日[『洛北雑記』収録]
 民族耐乏『中央公論』57-7、7月1日[『民族耐乏』収録]
 広狭の民族主義[「時観」]『合同新聞[夕刊]』7月17日[『民族耐乏』収録]
 国家と学問『改造』24-8、8月1日[座談会：和辻哲郎、長谷川如是閑、牧野英一、小泉丹]
- *貧乏論回顧、初出未詳、8月[『民族耐乏』収録]
- *塔の段談義、初出未詳、8月[『民族耐乏』収録]
 大学院拡充の必要[「新教育に望む」]『改造』24-10、10月1日
 塔段雑記『経済往来』17-10、10月1日[『洛北雑記』収録]
- *貧乏とは何か、初出未詳、10月[『民族耐乏』収録]
 乗数理論の問題—鬼頭教授の名著について—『経済論叢』55-4、10月1日[『最近利子論研究』収録]
 ヒックス利子決定論の分析『経済学論集』12-11、12、11月1日、12月1日[「ヒックス利子決定論の分析」
 「ヒックス利子決定論の吟味」「所得と制約—ヒックスに於ける此二の概念の分析—」「投資と節約とに於

- ける時間性—此点に関するヒックスとケインズとの接近度—と題して『最近利子論研究』収録]
- 「道」「戦」としての学問 時局と学生『京都帝国大学新聞』355、11月5日
- 当日の朝夕『京都帝国大学新聞』357、12月5日
- 技術の問題[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』12月22日
- *統制経済の進路『大阪学士会会報』[『大阪学士会倶楽部会報』のこことか]掲載月日未詳[『民族と経済第二集』収録]

1943(昭和18)年

- 連関財についての覚書『経済論叢』56-1、1月1日[『経済の勢力理論』収録]
- 技術の問題[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月27日
- 時局と出版文化 長期戦の真姿を把握せよ『日本読書新聞』238、2月27日
- 利子論序説の一節『経済論叢』56-3、3月1日
- *日本民族の方向『固本盛国』7-3、3月1日[『民族と経済第二集』収録]
- *雲仙の友『龍谷大学新聞』3月16日[『洛北雑記』収録]
- 日米戦争目的の相違『大阪毎日新聞』3月21、22日
- 利子を決定するもの『経済論叢』56-4、4月1日[「利子の高さの決定」と改題『新利子論』収録]
- 東亜民族の問題『公民講座』221、222、4月1日、5月1日
- 大学教育の反省—講義を終らんとして—『教育』11-4、4月10日[「講義を終らんとして」と改題『洛北雑記』収録]
- 利子に於ける勢力『経済論叢』56-5、5月1日[「利子決定と漸次的接近」と「利子決定の階層」『新利子論』に収録]
- 困苦に耐へる生活『婦人公論』28-5、5月1日[座談会：佐久千代子、岩野喜久代、高良富子][『婦人雑誌』がつくる大正・昭和の女性像. 第28巻] (ゆまに書房、2016年)収録]
- 蜜柑の花、水鶏[「随筆わがふるさと記」]『京都新聞』5月13日[「ふるさとのこと」と改題『洛北雑記』収録]
- 国家と経済生活『経済論叢』56-6、6月1日[『統制経済論』収録]
- 民族の問題『京都帝国大学新聞』366、6月20日
- 貨幣よりの干渉—利子率の決定に関して—『経済論叢』57-1、7月1日[『新利子論』収録]
- 統制経済の運営『経済論叢』57-2、8月1日[『統制経済論』収録]
- 重農論のこと『新風土』6-8、8月1日
- 北海行[短歌7首]『文芸世紀』5-8、8月1日
- 戦局は教ふ[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』8月24日
- 国家の淘汰[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』9月18日
- [「愛読書の中より」]『日本読書新聞』268、9月25日
- 統制経済の諸概念—封鎖的統制に論及す—『経済論叢』57-4、10月1日[『統制経済論』収録]

政治と品格[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』10月20日
需給統制の諸方法『経済論叢』57-5、11月1日[『統制経済論』収録]
二つの体験『新風土』6-11、11月1日
大東亜戦争の意義『京都帝国大学新聞』372、373、11月5、20日
[「戦陣に薦むる書」]『帝国大学新聞』965、11月22日
ヒックス利子理論について—安井琢磨助教授に答ふ—『経済論叢』57-6、12月1日[『最近利子論研究』収録]
競争の原理[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』12月1日
大槻正男博士著「稲の花」を読む『京都帝国大学新聞』374、12月5日
経済計算論『国民経済雑誌』75-6、12月20日[『統制経済論』収録]
統制の緩和[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』12月23日
帰郷記『冬柏』15-1、12月27日[『洛北雑記』収録]

1944(昭和19)年

利子の資金説について—安井助教授のヒックス利子理論に答ふ—『経済学論集』14-1、1月1日[『最近利子論研究』収録]
国防中心の増産へ 民衆の生活水準を昂揚[「大東亜宣言の顕現」]『東京朝日新聞』1月15日
流れる時代—思想三十年—『日本読書新聞』282、1月15日
退官[短歌12首]『京都帝国大学新聞』376、1月20日
無隣庵のこと『学海』2-2、2月1日[『洛北雑記』収録]
節約物語『財政』9-2、2月1日
南天の実『日本短歌』13-2、2月1日[『洛北雑記』収録]
ヒックスに於ける同次性の問題—三たび安井助教授に答ふ—『経済論叢』58-3、3月1日[『最近利子論研究』収録]
民族と国土計画『国土計画』3-1、3月20日
価格と所有『経済論叢』58-4、4月1日[『経済の勢力理論』収録]
資本稀少説を中心として『経済論叢』58-5、5月1日[「資本不足説について」と改題『最近利子論研究』収録]
物価の問題—撒布資金と貯蓄の関係—[講演於金融学会春季総会]『東洋経済新報』2128、6月24日[『インフレーションの解明』収録]
経済の向ふところ『中央公論』59-7、7月1日
勢力説の展開へ[「自著を語る」]『日本読書新聞』305、8月1日[「統制経済論の次に」と改題『洛北雑記』収録]
貨幣超過について『財政』9-8、8月1日[「貨幣発超について」と改題『インフレーションの解明』収録]

敵前増産の要請に応へ経済政策の向ふべき方途『大学新聞』5、8月21日

食糧の革新『公論』7-9、9月1日

急げ労務管理の改善『毎日新聞[大阪]』9月9日

物価の位置『[三和銀行金融研究会]経済月報』119、9月30日[『インフレーションの解明』抄録]

望郷の記『文芸春秋』22-11、11月1日[『洛北雑記』収録]

1945(昭和20)年

増税の意義—増徴の根本的条件—『日本評論』20-1、1月1日

耐乏と共乏『週刊毎日』24-3、1月21日

疎開を送る『東京新聞』2月15日

決戦体制の基底 観念的経済論策を排す『日本読書新聞』326、3月11日

*民族の因縁『月刊毎日』2-5<5月号>、4月20日

戦争『乗合船』1、5月20日

[「読書座右銘」]『日本読書新聞』329、5月21日

水鳥[短歌]『大学新聞』34、7月21日

今こそ大地に根を この機逃すまい“疎開”は“帰農”だ[「農と食 日本繁栄の一筋道」]『[大阪]毎日新聞』
8月13日[『新聞集成昭和編年史 昭和二十年版IV』(新聞資料出版、1997年)収録]

悪性インフレ日本 科学なき経済政策 今後は農の見通しが主眼[談]『北国毎日新聞』11月27日[『新聞集
成昭和編年史 昭和二十年版VI』(新聞資料出版、1997年)収録]

旅とその後—田園正にあれんとす—『学園新聞』62、12月22日

食糧問題の核心[「食糧対策と人口対策 戦後処理の二問題」]『東洋経済新報』2203、12月22日[『現下の
食糧問題』<調査資料 第2輯>(衆議院調査課、1946年)収録、加筆して『終戦三論』収録]

1946(昭和21)年

終戦回想『財政』11-1、1月1日[「彦根回想」と改題『洛北雑記』収録]

*管理通貨の本質『金融学会会報』4月[『インフレーションの解明』収録]

*戦後経済談話『世紀』1、4月

岩戸村『乗合船』2、5月20日

[短歌「六月集」]『短歌圏』19-3、6月1日

流転『時事新報』6月13日[『洛北雑記』収録]

貫く信念『多元的社会観』—社会的基督教者—『関西学院新聞』204、6月27日[「中島重博士のこと」と
改題『洛北雑記』収録]

生活の水準『談論』1-2、7月1日[「生活水準について」と改題『洛北雑記』収録]

かささぎ『文芸春秋』24-6、8月1日

大正を中心とした思想界の追憶『世紀』1-3、8月15日[座談会：新村出、恒藤恭、森暢、山根徳太郎]

近詠十首[短歌]『財政』11-8、9月1日

経済学研究回顧『経済評論』1-7、8、10月1日、11月1日[「研究の回顧」と改題『洛北雑記』収録]

1947(昭和22)年

農村のために『天地』1、1月1日

[「執筆通信」]『日本読書新聞』377、1月22日

昭和を中心とした思想界の追憶『世紀』2-1、2月25日[座談会：恒藤恭、重松俊明、山根徳太郎、上田堪一郎]

川根の記『明星』1-1、3月1日[『洛北雑記』収録]

先づ通貨の安定を[「インフレと賃金問題」]『東洋経済新報』2266、4月5日[『社会の動き』2-5、1947年5月15日に転載。「物価と労銀」と改題『インフレーションの解明』収録]

雲[短歌]『財政』12-4、5月1日

葉桜のころ『時流』1-3、5月30日

わが人生観『科学圏』2-6、6月1日

村居雑記『経済』1-8、10月1日[『学問遍路』収録]

月曜会のこと『随筆』2-9・10、10月1日

読書の回顧『読書倶楽部』2-5、10月1日

経済学の将来『経済』1-9、11月1日

1948(昭和23)年

谷川[短歌]『財政』13-2、2月1日

農人の将来『新風土』復刊3、2月1日

大淀川にて[短歌]『八雲』3-2、2月1日

国家と国際『社会圏』2-5、5月1日

箭をめぐる話『エコノミスト』26-16、6月11日

社会学と社会科学『社会科学評論』1・2、7月1日[『社会学の根本問題—改訂版—』収録]

安定か生産か『経営評論』3-7、8月1日

世界社会ということの意識『人類同盟』6、8月1日

天才と実生活—与謝野晶子書簡集を読む—『知と行』3-8、8月1日

問題は勢力関係の帰趨—資本主義の前途『日本経済新報』1-9、9月15日

最近の農村問題『農業と経済』14-10、10月5日

インフレーションの形態について『経済新誌』3-9、10月20日

[ハガキ回答]『日本古書通信』13-10[復刊18]、10月24日

世界社会の分析『人類同盟』7、11月1日

邂逅[短歌]『財政』13-11、11月1日

結合社会学の立場『社会学研究』2-1、12月25日

米田博士の追憶[「先覚の人と学説」]『社会学研究』2-1、12月25日

1949(昭和24)年

学問の旅—学究の自叙伝—『経済』3-1~4、1月1日、2月1日、3月1日、5月1日【1社会学に志すまで(生い立ち、五高文科に入るまで、大学への志望の頃、高校生活への回想)、2社会学への道(卒業論文として分業論、貧困の思想、平凡な一卒業生、在学中の読書のこと、冬眠的作歌生活、社会学研究の停頓期、先輩の知遇、結婚前後、幾つかの学会、数理経済学の模索、健康のこと、広島のこと、広島に於ける研究、東京への交渉、其の他の思ひ出)】

追憶『明星』3-2、2月1日

組合についての感想『月刊労働組合』2-4、4月1日

結婚と経済『生活と経済』1-1、4月1日

かれこれの夢[「随筆」]『産業佐賀』4-3、5月1日

集団考『社会科学評論』4、6月1日

[「ハガキ回答 文化人の読書と著述 一、推薦書籍 二、推薦理由 三、最近の著書」]『日読ニュース』39、6月15日

雨中私語『経営評論』4-7、7月1日[『耐乏夜話』収録]

三つの話『知と行』4-8、8月1日

人類の向ふところ『時論』4-8、8月1日

生活切り下げの種[「煙草談議」]『明』2-9・10、9月1日[「煙草談議」と改題『耐乏夜話』収録]

日本経済自立の問題[創立十週年記念講演]『興友』3-9、9月5日

貯蓄の第三義『貯蓄時報』2、9月[『経済自立論』、日本銀行貯蓄推進部編『貯蓄の論理 貯蓄に関する論説集』(貯蓄増強中央委員会、1965年)収録]収録]

キャンディ物語『再建評論』1-1、10月1日[『耐乏夜話』収録]

1950(昭和25)年

デフレ下の国民生活—高生活か、低生活か—『再建評論』2-1、1月1日

日本経済の光明をさぐる『産業と産業人』3-1、1月1日[鼎談：佐藤喜一郎、中山伊知郎]

郷土社会の研究『郷土研究』1、1月20日

経済の安定と自立『貯蓄時報』4、1月[『経済自立論』収録]

批判と反批判『社会科学評論』5、2月1日【(一)第三史観の批評に答ふ、(二)厚生函数について—熊谷教授の「厚生経済学の基礎理論」—】

『新しい経済学』の読後感『東洋経済新報』2409、2月11日
本を読みすぎた話[「随筆」]『エコノミスト』28-6、2月21日
国家と戦争 国際主義から世界国家へ『改造』31-3、3月1日
厚生経済学の前提『季刊理論経済学』1-3、6月26日
安定恐慌の否定『経済新誌』5-4、9月1日
段階と定型—封建制についての覚書—『芸林』1-5、12月1日

1951(昭和26)年

一八八三年『エコノミスト』29-1、1月1日
戦争放棄の社会経済的基礎—世界単一国家論をめぐって『改造』32-1、1月1日
社会学に対する私の立場『社会学評論』1-4、3月10日[主張・批判・再批判を誌上討論：新明正道、尾高邦雄][日高六郎編『社会学論集 理論篇』<大学セミナー双書>(河出書房新社、1959年)収録]
貯蓄と農村『農林金融』4-7、7月15日
経済清談 高田保馬博士を困んで物を聴く[インタビュー]『エコノミスト』29-24、8月21日
安定の問題をめぐって『貯蓄時報』11、9月[「ドッジ政策に於ける二つの盲点」と改題『経済自立論』収録]
世界主義の実現に志す 若くして知った貧困の中にある平和『学園新聞』625・626、11月12日

1952(昭和27)年

労銀理論の反省—ケインズをめぐりて—『同志社大学経済学論叢』3-3、1月20日[『ケインズ論難』収録]
—の社会学的経済理論—ケインズ理論の含蓄—『大阪大学経済学』1-2、1月25日[『ケインズ論難』収録]
資本主義の変質『季刊理論経済学』3-1、3月8日
函館回想『桃李』2-4、4月1日
An Introduction to Sociological Economics ; Implications of Keynesian Theory, *Osaka Economic Papers*, Vol.1, No.1, May
労働組合と賃金『経済人』6-6、6月1日[「賃金と労働組合」と改題『経済自立論』収録]
中共貿易の本質[「時評」]『読売新聞』7月22日
行雲流水『淡交』6-8、8月1日[鼎談：牧野虎次、西田天香]
三十年の追憶[「山本実彦を悼む」]『改造』33-12、9月1日
待兼山談義(一)『大阪大学経済学』2-1、9月5日【A 絶対地代の否認、B 乗数理論と加速度原理との総合は可能であるか、C 労銀に関する効用分析】
日本の経済自立について『福岡商大論叢』<開学記念増刊>11月10日[「日本経済の将来と四つの革命」と改題『経済自立論』収録]

*日本経済の長期方針[1951年12月上旬札幌講演]『北海道報』月日未詳[『経済自立論』収録]

1953(昭和 28)年

経済水書[「経済時評」]『財政』18-1~4、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日[『貧しき日本経済』収録]

正月料理あれこれ 九州の巻『淡交』7-1、1月1日

星の衝突・人の衝突[「随筆」]『週刊エコノミスト』31-1、1月3日

全産業立法を再検討せよー第一の失敗は第二、第三の失環をよぶー[「日本経済の現状診断とその対策」]『東洋経済新報』2556、1月3日

田中金司教授著『金本位制の回顧と展望』読後感[「書評」]『国民経済雑誌』87-1、1月10日

日本経済復興の条件[講演要旨]『経済人』7-2、2月1日

長期的インフレーションの問題『同志社大学経済学論叢』4-4、2月20日

成長率論自描一待兼山談義(二)ー『大阪大学経済学』2-3、2月28日

経済の長期方針をかく考える『東洋経済新報』2568、3月28日[「経済の長期方針」と改題『貧しき日本経済』収録]

A Third Theory of Wages, *Osaka Economic Papers*, Vol.2, No.1, March

金利政策の問題『貯蓄時報』16、4月[日本銀行貯蓄推進部編『貯蓄の論理 貯蓄に関する論説集』(貯蓄増強中央委員会、1965年)収録]

経済自立への難道を行け[「冷戦後退と日本の将来」]『ダイヤモンド』41-16、5月1日[「自立の難道」と改題『貧しき日本経済』収録]

研究の回顧ー勢力説の成長をめぐりてー『思想』347、5月10日[金田一京助編『学究生活の思い出』(宝文館、1954年)収録]

利子率の制度性[「金融学会秋季大会報告要旨」]『季刊理論経済学』4-2、5月

日本経済の病状ー経済水書の五ー『財政』18-6、6月1日[『貧しき日本経済』収録]

For Japan's Economic Autonomy, *Oriental Economist*, No.512, June

耐乏生活と日本経済『経営者』7-7、7月1日[「耐乏と自立」と改題『貧しき日本経済』収録]

インフレーションと資本主義的發展ーケインズ十字のパティンキン修正に論及すー『同志社大学経済学論叢』4-5、7月1日

利子率の制度性ー待兼山談義(三)ー『大阪大学経済学』2-4、7月10日[『ケインズ論難』収録]

経済学の回顧と展望 高田保馬氏に訊く[「今日の経済学 誌上講座」]『週刊エコノミスト』31-30~34、7月25日、8月1、8、15、22日

市民組織に関する私見『都市問題』44-10、10月1日[金子勇編『高田保馬リカバリー』(ミネルヴァ書房、2003年)収録]

新予算を自立の見地から『明窓』4-7、10月1日

資本蓄積と減価償却『大阪大学経済学』3-1、10月10日

光としての存在[「社会科学者はどう見る」]『学園新聞』715・716、10月12日

『分業論』についてー処女作のこと『書斎の窓』7、12月10日

生産より安定が第一義[「日本経済の再診断と自立の方策」]『東洋経済新報』2606、12月19日

1954(昭和29)年

生産主義の過誤—生産主義とインフレーション—『経済新誌』9-1、1月1日[『貧しき日本経済』収録]

日本経済の前途『桃李』4-1、1月1日

均衡成長の諸定型『大阪大学経済学』3-3、1月25日

再評価強制の問題『経済人』8-3、3月1日

日本のために 病根は政治の弱さにある『実業之世界』51-4、3月1日

Critical Notes on the Theory of the Rate of Interests, *Osaka Economic Papers*, Vol.2, No.2, March

日本経済[講演速記録]『関西経協』8-4、5、4月1日、5月1日

耐乏にあらず[巻頭言]『貯蓄時報』20、4月

関桂三著「日本綿業論」を読む[「書評」]『東洋紡績株式会社経済研究所月報』48、4月

友情について『財政』19-5、5月1日

経済体質の改善[巻頭言]『貯蓄時報』21、7月

日本経済を救ふもの[7月5日講演要旨於阪大経済懇話会]『経済人』8-8、8月1日

方向を誤れる日本経済『公民講座』294、8月10日

心のおごり『財政』19-8、8月1日

後進国民主義の問題『太平洋問題』8、8月25日

社会意識の問題『文化』<東北大学文学会>復刊18-5、9月1日

投資乗数の問題『大阪大学経済学』4-1・2、10月10日[『ケインズ論難』収録]

英独にかく学ぶ[巻頭言]『貯蓄時報』22、10月

利子理論に関する覚書—ケインズ利子論批判を中心として—『青山経済論集』6-2・3、11月[『ケインズ論難』収録]

校歌回想『財政』19-12、12月1日

Two Consumption Functions: Static and Dynamic, *Osaka Economic Papers*, Vol.3, No.1, Dec.

1955(昭和30)年

日本経済の課題『経営者』9-1、1月1日

戦後十年目の正月[「随想」]『週刊エコノミスト』33-1、1月1日

経済安定への道『読売新聞』1月1日[一万田尚登との対談]

米田庄太郎先生のこと『書齋の窓』19、1月10日[『書齋の窓』274、1978年5月1日に再録]

Power and Economy —Some Counter-Criticism on Power Theory in Economics—, *Osaka Economic Papers*, Vol.3, No.3, March

- 自然成長率に関する覚書『経済研究』＜岩波書店＞6・2、4月1日
 拡大均衡をめぐる『貯蓄時報』24、4月[『貧しき日本経済』収録]
 終戦前後のこと『財政』20-10、8月1日[『学問遍路』収録]
 平和共存の考へ方[7月29日講演要旨於阪大経済懇話会]『経済人』9-9、9月1日
 思想転変『新論』1-3、9月1日[『社会主義評論』収録]
 Power and Stagnation, *Osaka Economic Papers*, Vol.4, No.2, Sept.
 追放のあとあぢ『財政』20-12、10月1日[『学問遍路』収録]
 百鳥居の記『財政』20-13、11月1日[『学問遍路』収録]
 ソ連「経済学教科書」批判 主として労働価値説を繞りながら『新論』1-5、11月1日[「『経済学教科書』の
 経済理論の吟味」と改題『社会主義評論』収録]
 三日月村から『財政』20-14、12月1日[『学問遍路』収録]
 生活問答『エコノミスト』33-51、12月17日

1956(昭和31)年

- 南船北馬『財政』21-1、1月1日[『学問遍路』収録]
 待兼山に入る『財政』21-2、2月1日[『学問遍路』収録]
 *経済学教科書について『Kurashiki Rayon 連絡月報』2月[「『経済学教科書』の分析と批評」と改題『社
 会主義評論』収録]
 消費函数をめぐる省察『経済論叢』77-3、3月1日
 社会学への郷愁『財政』21-3、3月1日[『学問遍路』収録]
 勢力説を語る『財政』21-4、4月1日[『学問遍路』収録]
 サラリーマン経済学『週刊エコノミスト』34-別冊、4月10日
 経済学説の動きー日本経済の現状分析をめぐるー『貯蓄時報』28、4月
 春宵別離『財政』21-5、5月1日[『学問遍路』収録]
 我友の記『洛味』55、5月15日
 訪日の社会学者『財政』21-6、6月1日[「来日学者の印象」と改題『学問遍路』収録]
 乗数の問題 乗数と流通速度との結合『バンキング』100、7月1日[金融学会編『金融論選集 第四卷』(東
 洋経済新報社、1957年)収録]
 経済の触角ー世界的水準化の後退ー『実業之世界』53-8、8月1日
 貧困化説四十五年[「貧困化法則にかんする論評」]『経済評論』5-9、9月1日
 二つの社会主義『東洋経済新報』2744、9月8日

1957(昭和 32)年

- 利子論についての覚書『青山経済論集』8-4、3月5日
- インフレーションの第二義—相対インフレの見方—『[三和銀行]経済月報』242、3月
- 後進国の経済発展について『週刊エコノミスト』35-16、4月20日
- 経済の自然治癒『週刊エコノミスト』35-30、7月27日
- 経済構造の概念『大阪府立大学経済研究』3、7月31日
- 振子の経済『[三和銀行]経済月報』246、7月
- 恒心への生活[巻頭言]『貯蓄時報』33、7月
- 日本の谷間[「経済時評」]『財政』22-8、8月1日
- 弱国の経済[「経済時評」]『財政』22-9、9月1日
- 独立経済の旗の下に—民族の貧に徹せよ—『経済往来』9-10、10月1日
- 利子の下限について—ケインズ・カッセルの所説を否定す『経済論叢』80-4、10月1日
- 節約は白し[「経済時評」]『財政』22-10、10月1日
- 私の追憶『週刊エコノミスト』35-41～50、36-1～13、10月12、19、26日、11月2、9、16、23、30日、12月7、14日、**1958年**1月4、11、18、25日、2月1、8、15、22日、3月1、8、15、22、29日【京大以前(1～3)、京大入学(1～3)、多難な講師時代(1～3)、広島へ、そして東京へ(1～4)、東京から九州へ(1～4)、郷里三日月村の生活(1～4)、九大から京大へ(1～3)】
- 経済学と私『経済セミナー』9、11月1日
- 後進地域開発と加速度原則『大阪府立大学経済研究』5、12月1日
- 北野熊喜男博士著「経済社会学の基本問題」[「書評」]『国民経済雑誌』96-6、12月10日

1958(昭和 33)年

- [「智慧の言葉 アンケート」]『大乘』9-1、1月1日
- 後進地域開発に関する加速度原則『太平洋問題』特1、1月31日
- 勢力説の構造『大阪府立大学経済研究』6、3月31日
- 利子下限の問題『金融学会報告』7、5月25日
- 後進国問題と東亜の関係『太平洋問題』52～54、7月25日、8月25日、9月25日
- 経済学者は何をなすべきか—永遠の使命と現代的使命の距離—『経済往来』10-9、9月1日[座談会：阿部源一、坂本二郎]
- 独占度概念の批判『国民経済雑誌』98-4、10月30日

1959(昭和 34)年

- 安定の二義について 通貨安定と経済安定『バンキング』130、1月1日
- 二つの経済学の見方『経済セミナー』28、3月1日

On Social Differentiation, *Bulletin of University of Osaka Prefecture*, Series D., Vol.III, 3月20日

On the Independences of Central Bank, *Bulletin of University of Osaka Prefecture*, Series D., Vol.III,
3月20日

中央銀行問題について『大阪府立大学経済研究』12、9月30日

1960(昭和35)年

世界経済の変容『経済人』14-1、1月1日

小松教授の共益社会論について『同志社法学』11-4、1月20日

二つの自由について—どの自由を否定し、どの自由を認めるか—『経済往来』12-3、3月1日

発券制度考『週刊エコノミスト』38-15、4月12日

失業の原因について『税経セミナー』46、6月1日

社会変動について『社会学評論』10-3・4、7月20日 [金子勇編『高田保馬リカバリー』(ミネルヴァ書房、
2003年)収録]

小松堅太郎博士を悼む『社会学評論』10-3・4、7月20日

民主主義のなにを守るか—乱麻のごとき「民主主義」を解明せよ『経済往来』12-8、8月1日

1961(昭和36)年

需要不足論は間違っている『週刊エコノミスト』39-4、1月24日

日本の経済はどうあるべきか『師と友』13-3、3月10日

貯蓄物語『貯蓄時報』47、3月[『相互銀行』11-4、4月15日に抄録、日本銀行貯蓄推進部編『貯蓄の論
理 貯蓄に関する論説集』(貯蓄増強中央委員会、1965年)収録]

車中雑詠[短歌10首]『経済人』15-5、5月1日

回想三十五年『経済往来』13-6、6月1日

利子政策の限界『大阪大学経済学』11-1・2、10月15日

賃金と合理性『龍谷大学経済学論集』1-1、12月20日

1962(昭和37)年

洛北十話『毎日新聞』3月2、4~9、11、14、15日[『十人百話1』(毎日新聞社、1962年8月10日)収録]
【運命について、極微の知識と欧州共同市場、第二次大戦と技術革命、一葉落つ、国内にも格差、民族
精進、成長の問題、世紀の曙光、海運の問題、暁の希望】

賃金論の改造—私の提言『経済評論』11-6、6月1日

価格の社会的理論—失業の新しき説明—『龍谷大学経済学論集』2-1、7月15日

賃金理論の改造『大阪府立大学経済研究』25、12月31日

1963(昭和 38)年

京都の生活『文芸春秋』41-3、3月1日

成長と利子率『バンキング』185、8月1日

*福利と幸福『[島根大学教育学部]同窓会誌』15、12月[『文化講演集』(島根大学教育学部同窓会編・刊、1988年9月30日)収録]

1964(昭和 39)年

独占と勢力—勢力説の多義性—『大阪大学経済学』13-3・4、3月5日

定型としての共同社会『ソシオロジ』11-1・2、9月30日

「経済往来」とわが回想—経済成長の理論と実証との展開を求めて—『経済往来』16-10、10月1日

1966(昭和 41)年

小泉博士の追憶『経済往来』18-7、7月1日

1967(昭和 42)年

経済学と私[「特集 経済学入門」]『経済セミナー』132、4月1日

1971(昭和 45)年

貯蓄の善悪について『公民講座』319、6月

掲載年月日未詳

海峡の灯『関西大学学報』[『回想記』収録]

雨『大阪朝日新聞』[『回想記』収録]

新学生道『大阪朝日新聞』[『回想記』収録]

晩春雑記『福岡日日新聞』[『回想記』収録]

農村観断章『福岡日日新聞』[『回想記』収録]

愛国としての節約『福岡日日新聞』[『回想記』収録]